

三郷町教育委員会
教育に関する事務の点検及び評価報告書
(平成26年度実施分)

平成27年9月
三郷町教育委員会

目 次

はじめに	1
I 点検・評価の概要	2
II 町教育委員会の活動状況	3
III 施策及び事業の点検・評価	8
1. 三郷町第4次総合計画との対応関係	9
2. 平成26年度主要事業と進捗状況	10
3. 点検・評価項目	
①学校施設の整備	11
②教職員研修の充実	13
③就園・就学の支援	15
④特別支援教育の推進	17
⑤情報・国際教育の推進	19
⑥いじめ・不登校の対策	21
⑦地域の教育力の向上	23
⑧安全・安心の学校づくり	25
⑨学校給食体制の整備	27
⑩幼児教育の充実	29
⑪放課後児童クラブの充実	31
⑫生涯学習の推進	33
⑬青少年の健全育成	35
⑭人権教育・啓発の推進	37
⑮文化センターの充実	39
⑯文化活動への支援	41
⑰図書館の充実	43
⑱文化財の保護と活用	45
⑲生涯スポーツの推進	47
⑳スポーツ施設の整備	49
IV 学識経験者の知見の活用	51

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。（同法第26条第1項）

同法の規定に基づき、平成26年度実施分の教育に関する事務の点検及び評価を行いましたので、その結果をまとめ報告いたします。

平成27年9月

三郷町教育委員会

委員長	森川 征浩
委員	鶴丸 浩
委員	芝崎 善彦
委員	澤 美穂
委員(教育長)	山野 一明

I 点検・評価の概要

1. 点検・評価の目的

町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検及び評価を行うことで、これまで取り組んできた施策の課題等を明らかにし、効果的な教育行政の推進を図るとともに、その結果を公表することにより開かれた教育行政を推進することを目的としています。

2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、平成26年度の実績に基づき、「町教育委員会の活動状況」及び「町教育委員会が実施する施策及び事業」を対象としています。

3. 点検・評価の実施方法

- ①町教育委員会の活動状況については、平成26年度の教育委員会議の開催状況や審議事項等を総括し点検しました。
- ②町教育委員会が実施する施策及び事業については、「三郷町第4次総合計画」の施策体系ごとに、20の点検評価項目を設定し、それぞれの事務事業の平成26年度の実績について、「事業評価シート」にまとめました。
- ③点検及び評価にあたっては、客観性を確保するため、外部の学識経験を有する方から、指導・助言を受け、報告書をまとめました。

【点検評価有識者】

氏 名	所属・役職
にしつじ まさすけ 西 辻 正 副	奈良学園大学 副学長（人間教育学部 教授）

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」～抜粋～

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 町教育委員会の活動状況

1. 教育委員

役職名	氏 名
委 員 長	森 川 征 浩
職務代理者	鶴 丸 浩
委 員	芝 崎 善 彦
委 員	澤 美 穂
教 育 長	山 野 一 明

2. 教育委員会議の開催状況

- ①定例会・・・12回
- ②臨時会・・・11回

3. 教育委員会議の審議状況

- ①審議事項・・・39件
- ②報告事項・・・23件（各課別報告除く。）

※次頁以降に、平成26年度の教育委員会の開催状況及び審議状況を記載しています。審議事項については、「議案」として、その他の報告事項については、「報告」に分類し記載しています。

4. 教育委員の活動状況

- ①学校(園)計画訪問実施（年1回）
幼稚園1園、小学校2校、中学校1校
- ②小中学校教諭との意見交換会（年1回）
小学校2校、中学校1校
- ③学校行事への参加
入学(園)式、卒業(園)式、運動会(体育大会)、町民体育祭、町民文化祭等
- ④各種会議、行事、研修会等への参加
子どもの安全対策連絡会議、学校支援地域本部事業実行委員会、人権教育、青少年育成各種会議、不登校対策連絡会、各校園PTA役員との意見交換会、各種研修・研究大会、成人式等

平成26年度 教育委員会議の開催状況について

会 議	平成26年 第4回定例教育委員会	開会日	平成26年4月18日(金)
報 告	・教育委員会事務局職員の人事異動について ・教職員の人事異動について ・生駒郡教育長会について ・生駒郡地教委連絡協議会について ・各課別報告		
会 議	平成26年 第5回定例教育委員会	開会日	平成26年5月19日(月)
議 案	・学校評議員の委嘱について ・平成26年度町立学校(園)計画訪問の実施日程について ・三郷町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について ・三郷町立幼稚園の保育料等徴収条例施行規則の一部改正について		
報 告	・各課別報告		
会 議	平成26年 第2回臨時教育委員会	開会日	平成26年6月6日(金)
報 告	・三郷中学校生徒について		
会 議	平成26年 第3回臨時教育委員会	開会日	平成26年6月10日(火)
議 案	・三郷中学校生徒の出席停止について		
会 議	平成26年 第6回定例教育委員会	開会日	平成26年6月18日(水)
報 告	・平成26年第2回(6月)三郷町議会定例会について ・学校評議員報告について ・給食費の滞納状況について ・各課別報告		
会 議	平成26年 第4回臨時教育委員会	開会日	平成26年6月20日(金)
議 案	・三郷中学校生徒の出席停止について		
会 議	平成26年 第5回臨時教育委員会	開会日	平成26年6月25日(水)
議 案	・教育委員会事務局臨時職員について		

会 議	平成 2 6 年 第 6 回臨時教育委員会	開会日	平成 2 6 年 6 月 2 6 日 (木)
議案	・ 三郷中学校生徒の出席停止について		
会 議	平成 2 6 年 第 7 回臨時教育委員会	開会日	平成 2 6 年 7 月 3 日 (木)
議案	・ 三郷中学校生徒の出席停止について		
会 議	平成 2 6 年 第 8 回臨時教育委員会	開会日	平成 2 6 年 7 月 1 0 日 (木)
議案	・ 特別学習室の開設について ・ 三郷町心身障害児就学指導委員会への諮問について		
会 議	平成 2 6 年 第 7 回定例教育委員会	開会日	平成 2 6 年 7 月 1 4 日 (月)
議案	・ 三郷町立学校の学校体育施設の臨時開放について ・ 三郷町心身障害児就学指導委員会の答申について		
報告	・ 各課別報告		
会 議	平成 2 6 年 第 9 回臨時教育委員会	開会日	平成 2 6 年 8 月 7 日 (木)
議案	・ 小学校教科用図書の採択について		
会 議	平成 2 6 年 第 8 回定例教育委員会	開会日	平成 2 6 年 8 月 2 1 日 (木)
議案	・ 平成 2 7 年度三郷町立南畑幼稚園園児募集について ・ 平成 2 6 年度町立学校（園）運動会・体育大会の実施日程について ・ 教育に関する事務の点検及び評価報告書（平成 2 5 年度実施分）について ・ 三郷町学校給食集団食中毒緊急対策本部委員の委嘱及び任命について		
報告	・ 平成 2 6 年度町立学校（園）計画訪問の日程について ・ 財団法人三郷町文化振興財団の経営状況について ・ 各課別報告		
会 議	平成 2 6 年 第 1 0 回臨時教育委員会	開会日	平成 2 6 年 9 月 9 日 (火)
報告	・ 三郷中学校教員の盗難被害による個人情報紛失について		

会 議	平成 2 6 年 第 9 回定例教育委員会	開会日	平成 2 6 年 9 月 2 5 日(木)
議案	・三郷町心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について		
報告	・平成 2 6 年第 3 回（9 月）三郷町議会定例会について ・平成 2 5 年度図書館の利用状況について ・各課別報告		
会 議	平成 2 6 年 第 1 1 回臨時教育委員会	開会日	平成 2 6 年 1 0 月 1 日(水)
議案	・三郷町教育委員会委員長及び職務代理者の選任について		
報告	・平成 2 6 年度全国学力・学習状況調査の結果について		
会 議	平成 2 6 年 第 1 0 回定例教育委員会	開会日	平成 2 6 年 1 0 月 2 2 日(水)
議案	・三郷町心身障害児就学指導委員会への諮問について ・三郷町学校支援地域本部事業実行委員会委員の委嘱について		
報告	・平成 2 6 年度三郷町立南畑幼稚園の園児募集状況について ・各課別報告		
会 議	平成 2 6 年 第 1 2 回臨時教育委員会	開会日	平成 2 6 年 1 1 月 1 0 日(月)
議案	・三郷中学校生徒の出席停止について		
会 議	平成 2 6 年 第 1 1 回定例教育委員会	開会日	平成 2 6 年 1 1 月 2 0 日(木)
議案	・三郷町放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の制定について ・三郷町心身障害児就学指導委員会への答申について ・三郷町文化センターの指定管理者の指定について		
報告	・平成 2 7 年度三郷町立南畑幼稚園の抽選結果について ・「教育委員・町立小中学校」意見交換会について ・各課別報告		
会 議	平成 2 6 年 第 1 2 回定例教育委員会	開会日	平成 2 6 年 1 2 月 1 6 日(火)
議案	・三郷町心身障害児就学指導委員会への諮問について		
報告	・学校給食材料費の滞納整理状況について ・各課別報告		

会 議	平成 2 7 年 第 1 回定例教育委員会	開会日	平成 2 7 年 1 月 1 6 日(金)
議案	・平成 2 6 年度卒業（園）式及び平成 2 7 年度入学（園）式について		
報告	・平成 2 6 年第 4 回（1 2 月）三郷町議会定例会について ・学校給食材料費の滞納整理状況について ・各課別報告		
会 議	平成 2 7 年 第 2 回定例教育委員会	開会日	平成 2 7 年 2 月 1 8 日(水)
議案	・三郷町保育料等徴収条例の一部改正について ・三郷町放課後児童クラブ条例の一部改正について ・三郷町心身障害児就学指導委員会の答申について		
報告	・各課別報告		
会 議	平成 2 7 年 第 3 回定例教育委員会	開会日	平成 2 7 年 3 月 2 6 日(木)
議案	・三郷町教育委員会会議規則の一部改正について ・三郷町教育委員会公告式規則の一部改正について ・三郷町教育委員会傍聴人規則の一部改正について ・三郷町教育委員会の公印に関する規程の一部改正について ・三郷町教育委員会文書管理規程の一部改正について ・三郷町立幼稚園規則の一部改正について ・学校評議員の委嘱について ・平成 2 8 年三郷町成人式の開催について		
報告	・平成 2 7 年第 1 回（3 月）三郷町議会定例会について ・平成 2 7 年度予算案の概要について ・平成 2 7 年度町立学校（園）の教育課程について ・各課別報告		

Ⅲ 施策及び事業の点検・評価

1. 点検・評価の項目

点検及び評価にあたっては、より効率的で実効性のあるものにするため、「三郷町第4次総合計画」を検証し、その施策体系を網羅するように、次頁の表のとおり、20の「点検・評価項目」を設定しています。

点検及び評価の方法については、各事業の課題とその改善方法・結果について、PDCAサイクル(※)に従って詳細に記載できるようにするとともに、成果指標と決算額を示すこととし、成果とコストを明らかにするようにしています。

また、昨年度に引き続き、それぞれの事業費について、国や県の補助事業であるものについては、そのことを明記するようにしています。

2. 点検・評価結果の内容

各項目は、1. 基本事項 2. 事業概要・目的 3. 事業実績・結果 4. 点検評価・課題 5. 改善方法・結果 6. 今後の計画・方向性に分類しています。

【基本事項】

→施策の名称、担当課、総合計画の位置づけ及びその施策が目指す基本的な方向性を記載しています。

【事業概要・目的】

→各施策に基づいて教育委員会が実施した事業の概要とその目的を記載しています。

【事業実績・結果】

→実施した事業の実績及び結果を記載しています。数値については、平成26年度実績です。（「◎」については、補助事業を示します。）

【点検評価・課題】

→事業実績及び結果に基づき、事業の達成度、成果及び課題を記載しています。成果については、成果指標と決算額を数値で示しています。

また、課題については、継続的な課題とともに、平成26年度における新たな課題に分類して記載しています。

【改善方法・結果】

→継続的な課題に対する改善方法及び結果と新たな課題に対する改善方法の検討について記載しています。

【今後の計画・方向性】

→事業の今後の方向性と計画について記載しています。

※PDCAサイクル

計画(PLAN)→実行(DO)→点検(CHECK)→見直し(ACTION)の流れを次の計画に活かすことで、継続的な改善を図るプロセス。

三郷町第4次総合計画との対応関係

【総合計画の施策方針】

第1章 いきいきと笑顔で暮らせるまちをつくろう

第1節 子育て支援の充実

④親と子の学びと成長への支援 →⑪

第2節 学校教育の充実

①学校施設の整備 →①

②教職員の資質の向上 →②

③情報化・国際化に対応した教育環境の整備 →⑤

④学校給食体制の整備 →⑨

⑤「いじめ」や不登校児童・生徒に対する対策の充実 →⑥

⑥学校や登下校時の安全確保 →⑧

⑦地域とともに作る豊かな学校教育 →⑦

⑧子どもの非行防止 →⑬

第3節 生涯学習・文化活動の振興

①生涯学習推進体制の充実 →⑫

②文化センターの充実 →⑮

③文化活動団体への支援 →⑯

④図書館の充実 →⑰

第4節 生涯スポーツと健康づくりの振興

①自主的なクラブ・サークルやスポーツ団体の育成 →⑲

②青少年スポーツ活動の振興 →⑲

③総合型地域スポーツクラブの育成 →⑲

④障害者のスポーツ活動の充実 →⑳

⑤総合スポーツ施設の整備 →⑳

第6節 障害者の自立支援

③教育・育成支援の充実 →④

第2章 みどり豊かな美しいまちをつくろう

第4節 歴史的環境の保全

①文化財の保護と活用 →⑮

②民間団体による調査や歴史にふれる機会づくり →⑮

③歴史的資料の発掘と保全・管理 →⑮

第4章 みんなで協働するまちをつくろう

第1節 人権の尊重

①人権尊重の啓発 →⑭

②相談の充実 →⑭

【点検・評価項目】

①学校施設の整備 ←1. 2-①

②教職員研修の充実 ←1. 2-②

③就園・就学の支援

④特別支援教育の推進 ←1. 6-③

⑤情報・国際教育の推進 ←1. 2-③

⑥いじめ・不登校の対策 ←1. 2-⑤

⑦地域の教育力の向上 ←1. 2-⑦

⑧安全・安心の学校づくり ←1. 2-⑥

⑨学校給食体制の整備 ←1. 2-④

⑩幼児教育の充実

⑪放課後児童クラブの充実 ←1. 1-④

⑫生涯学習の推進 ←1. 3-①

⑬青少年の健全育成 ←1. 2-⑧

⑭人権教育・啓発の推進 ←4. 1-①②

⑮文化センターの充実 ←1. 3-②

⑯文化活動への支援 ←1. 3-③

⑰図書館の充実 ←1. 3-④

⑱文化財の保護と活用 ←2. 4-①②③

⑲生涯スポーツの推進 ←1. 4-①②③

⑳スポーツ施設の整備 ←1. 4-④⑤

1. →は、総合計画の施策方針と評価項目の対応関係を示す。
2. ←は、点検・評価項目と総合計画の施策方針の対応関係を示す。
凡例：1. 1-①＝第1章・第1節の①

平成26年度主要事業と進捗状況

【評価項目】

【主要事業及び進捗状況】

※上段は主要事業の内容、下段は年度計画事業や平成26年度重点項目。

①学校施設の整備

・学校、幼稚園の改修・整備工事

①非構造部材耐震化改修工事

②教職員研修の充実

・小中学校、幼稚園の教職員研修、県実施研修への参加

③就園・就学の支援

・小中学校就学援助、幼稚園就園奨励

④特別支援教育の推進

・特別支援教育の推進、教育相談、特別支援教育就学奨励

①特別支援担当者連絡会の充実

⑤情報・国際教育の推進

・校内LAN・教育用コンピュータの整備、ALT (外国語指導助手) の派遣

⑥いじめ・不登校の対策

・スクールカウンセラー活用、心の相談員、メンタルヘルス相談

①不登校対策連絡会の充実

⑦地域の教育力の向上

・子ども人権学習支援事業、学校支援地域本部事業

⑧安全・安心の学校づくり

・子ども情報ネットさんごう、さんごう子ども見まもり隊、青色防犯パトロール

①通学路危険箇所対策実施 ②三郷北小学校の通学路の新設

⑨学校給食体制の整備

・安全安心の学校給食、食育の推進、給食センターの建替

①地産地消の推進 ②多目的な新給食センターの建替え

⑩幼児教育の充実

・地域に開かれた幼稚園、子育て支援

⑪放課後児童クラブの充実

・放課後児童クラブの運営

①三郷北小学校放課後児童クラブの建設

⑫生涯学習の推進

・学習基盤の整備、各種学級の運営

⑬青少年の健全育成

・青少年育成三郷町民会議、親子のつどい、教育講演会、成人式

⑭人権教育・啓発の推進

・識字学級、人権教育地区別懇談会、人権問題学習セミナー、人権相談

⑮文化センターの充実

・公開講座・文化教室、グループ活動の支援、指定管理

①指定管理者の指定 (平成24年度から3年間)

⑯文化活動への支援

・生涯学習の指導者等の活用支援、各種団体への助成

①町民文化祭、芸術祭の開催

⑰図書館の充実

・情報資料の提供、子ども読書の推進、生涯学習事業の推進

⑱文化財の保護と活用

・文化財の保護、文化財の啓発・活用、地域の歴史学習の機会の提供

①文化財講演会の実施

⑲生涯スポーツの推進

・スポーツの推進、軽スポーツ事業

①総合型地域スポーツクラブの創設

⑳スポーツ施設の整備

・スポーツ施設の整備、指定管理

①指定管理 (平成25年度から平成29年度までの5年間)

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	①学校施設の整備	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章・第2節の①
基本方向	・学校施設の耐震性を確保します。 ・誰もが利用しやすい環境とするため、施設の整備を行います。				

2 事業概要・目的(P.L.A.N.)

事業概要・目的	・学校施設は、幼児・児童・生徒が1日の大半を過ごす学習・生活の場であり、「生きる力」をはぐくむための教育環境として重要な意義を持つだけでなく、地震などの災害発生時に地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、その安全性を確保する。 ・施設の耐震化のみでなく、天井・窓などの非構造部材の耐震性についても安全性を確保する。 ・第2次ベビーブーム時代に建設した学校施設の老朽化が深刻である状況に伴い、再生整備（改修）を優先順位をつけて実施する。 ・三郷中学校の老朽化により建替えを行う。
---------	---

3 事業実績・結果(D.O.)

事業実績・結果

○学校施設の耐震化の状況

※対象：非木造2階建以上、又は延べ床面積200㎡以上

・耐震化対象棟数：20棟（南畑幼稚園1、三郷小学校6、三郷北小学校5、三郷中学校8）

・耐震化率：100%

※体育館非構造部材の耐震について

・三郷小学校及び三郷中学校については、平成26年度に実施した。なお、南畑幼稚園及び三郷北小学校は対象外。

○各学校・園の施設整備状況（主な補修工事等、事業費200,000円以上）

【三郷小学校】

工事名称	事業費(円)
地下給食室雨漏り修繕工事	496,800
遊具修繕及び撤去	297,000
レール式ドア取替工事	1,026,000
身障者用トイレブース修繕工事	259,200
屋上防水修繕工事	309,226
中庭階段等舗装工事	1,371,600
体育館玄関・体育倉庫防水改修工事	1,999,917
防災備蓄倉庫床張替工事	992,520
体育館屋根防水工事	2,106,000
体育館非構造部材改修工事	31,320,000
西門門扉取替工事	426,600
その他補修・修繕工事	634,654
合 計	41,239,517

【三郷北小学校】

工事名称	事業費(円)
図工室用机天板張替修理（10台）	452,952
体育館床張替修繕	1,177,200
保健室シャワー配管取替修繕	226,800
校内LAN拡張工事	378,000
児童用トイレ洋式化改修工事	3,240,000
児童用通路舗装工事	367,200
旧放課後クラブ教室・鶏小屋撤去	766,800
放課後クラブ 目隠し壁設置工事	561,600
西門整備工事	5,288,760
西門防犯カメラ設置等工事	1,360,800
その他補修・修繕工事	860,357
合 計	14,680,469

【三郷中学校】

工事名称	事業費(円)
体育館バレーボールポール立て修繕	332,640
体育館舞台下収納庫修繕	286,200
グラウンド藤棚跡地屋根設置工事	765,180
体育館外壁窓飛散防止フィルム材貼り及び軒裏仕上げ材落下防止部分工事	12,312,000
学習室スライディングウォール・カーテン取付工事	1,037,880
その他補修・修繕工事	1,302,260
合 計	16,036,160

【南畑幼稚園】

工事名称	事業費(円)
絵本の部屋空調機入替工事	421,200
園舎・多目的ホール通路及び屋根取付工事	865,080
その他補修・修繕工事	707,302
合 計	1,993,582

○三郷中学校の建替えについて

三郷中学校について、老朽化対策として建替えを含めた検討を行なうため三郷中学校建替担当者会議が設置され、年間で6回の会議が開催された。

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・学校施設の耐震化率については、100%を達成している。【成果指標①】 ・各施設において、緊急かつ優先的に必要な改修・補修を実施したが、老朽化・経年劣化により、今後さらに改修・補修が必要である。 ・平成26年度の工事費は、三郷小学校及び三郷中学校の非構造部材耐震改修工事の関係もあり、前年度比で186%の増となった。【成果指標②】 ・三郷北小学校のクラス数増への対応に向け、平成26年度に旧放課後児童クラブ 場所に教室増築設計業務の予算を確保する。 ・三郷中学校施設については、平成29年度着工を目標に改築する方針が決定した。					
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①学校施設耐震化状況（対象施設）	耐震化率	%	100	100	H25 - H26 -
	②各学校、園改修・補修工事	補修・改修件数	件	97	121	H25 39,711,896 H26 73,949,728
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
③事業の課題	【継続的な課題】 ・老朽化・経年劣化による改修・補修が必要な施設があり、バリアフリー化も含めて随時対応していくこと。特に、三郷中学校については老朽化が進んでおり、保護者からも施設整備の要望が多い。財源の確保に努めながら、随時補修・改修を進めるが、平成29年度着工予定の新中学校との調整を計る。 ・現在の生活においてトイレは洋式が中心となってきており、特に低学年では和式トイレの使用方法がわからない子どもたちは数多くいる。学校内のトイレの洋式化を望む声が出ている。					
	【新たな課題】 ・平成25年度に三郷小学校と三郷北小学校の児童数が逆転し、将来的に三郷北小学校のクラス増に伴う教室数の確保に向け、検討する必要がある。 ・三郷中学校の老朽化に伴い、改築が決まり、準備作業が必要となる。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・改修・補修がこれまで以上に必要になってくることが見込まれるため、財政状況を勘案しながら、必要な整備を進める。 ・公立学校非構造部材の調査結果、三郷小学校体育館及び三郷中学校体育館において改修の必要があることから、平成26年度において各体育館天井等の非構造部材の耐震改修工事を行った。 ・三郷北小学校のトイレの洋式化については、平成26年度から2年計画で実施することが決定した。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・三郷北小学校のクラス増に伴い教室数を確保する為、教室の増築に取り組む。 ・三郷中学校改築に伴い、先進地の視察や行政内部の打合会議を開催する。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☒ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)				
	☐ 見直し	(内容)	☒ 予算拡充	☐ 予算削減	☐ 事業拡大	☐ 事業縮小
			☐ 手法見直し	☐ 休止・廃止		
・今後も、財政状況を勘案しつつ緊急性・優先性を鑑み、必要な整備を進める。 ・平成27年度は、三郷小学校では教室レール式ドア取替修理、北館ベランダモルタル剥離修理、運動場ライン整備工事、三郷北小学校では、プール塗装修繕、児童用トイレブース取替及び洋式化改修工事、三郷中学校ではプールろ材入替修繕などを整備していく。 ・三郷中学校改築に伴い、平成29年度の着工を目標に取り組む。						

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	②教職員研修の充実	担当課名	教育総務課 (南畑幼稚園)	総合計画位置づけ	第1章・第2節の②
基本方向	・子どもたちが健やかに成長できるよう、また、きめ細やかな指導で学力の向上を図るよう、県などの関係機関との連携協力により研修を実施し、教職員の資質向上に努めます。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	○小中学校 ・初任者の教諭に対し、1年間の研修を実施して実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させる。県の研修に加え、町においても年2回研修を（生駒郡地教委主催で）実施する。 ・発達障害等の特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する総合的な支援体制の充実を図るため、生駒市と生駒郡が合同で研修会を実施する。 ○幼稚園 ・生駒郡幼稚園教育研究会及び奈良県幼稚園教育研究協議会において、幼児一人ひとりへのきめ細やかな対応を学び、保育内容の充実を図るため各種研修会を行う。 ・幼稚園教員研修及び特別支援教育研修を随時行い、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図り、幼小連携をより充実させるとともに教員の資質向上を図る。 ・幼児期教育、小学校教育及び中学校教育との円滑な接続を図り、幼保小中連携をより充実させるための研修会を行う。 ◎県実施研修への参加【県費】 ・奈良県が実施する各種教職員研修に積極的な参加を促す。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○小中学校 【初任者研修】 ・研修対象者 10人 ①第1回生駒郡地教委主催初任者研修（参加者9人） 内容 フィールドワークや体験活動等とおして、安堵町の歴史と文化を学び教育活動に生かすとともに、互いの交流を深める。 ②第2回生駒郡地教委主催初任者研修（参加者8人） 内容 指導力及び授業力の向上を目指して、グループ討議、資料づくり、プレゼンテーションなどの手法による研修を深めることにより、教員としての資質を高める。 【特別支援教育研修会】 期日 平成26年8月20日(水) 場所 生駒市たけまるホール 内容 発達障害のある子どもの理解と支援についての講演会を実施。 参加人数：三郷町から34人 ○幼稚園 【生駒郡幼稚園教育研究会・奈良県幼稚園教育研究協議会】 内容 全体研修（講演）、各種部会研修（実践事例による研究協議）、特別支援コーディネーター研修、公開保育 回数 全体研修：郡2回、県1回 部会研修：（教育課程部会）郡4回、県1回 （放送教育部会）郡5回、県3回 特別支援コーディネーター研修：郡2回、県3回 公開保育：郡1回、県1回 【幼稚園教員研修】 ①園内及び新任研修 内容 外部講師による保育内容の点検及び指導と特別支援教育に関する指導助言。 回数 年間6回 ②職員研修 内容 隔週水曜日の保育終了後、職員研修を実施し、保育内容等の役割の共通理解に努めた。 回数 年間を通じておおよそ週1回 ※その他、随時公開保育を行い、初任者の指導内容の充実を図った。 ◎県実施研修への参加 ・初任者研修への参加 参加人数：10人 ・教職経験に応じたステージ別研修や職務や今日的課題等に対応した研修への参加 参加人数：39人（幼稚園7人、三小16人、北小16人） ・10年経験者研修への参加 参加人数：2人（幼稚園1人、三小1人）
---------	--

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○小中学校 ・生駒郡地教委主催の初任者研修については、授業展開や学級経営の仕方、生徒との接し方等の実践的なものであり、学校内の諸活動が活性化された。【成果指標①】 ※アンケート結果：いかに前を向いて話を最後まで聞かせるか、週間予定表などで子どもたちの学習状況を把握するかといった課題を見つけた一方、子どもたちを褒めることを大切にしよう、教壇に立つ自分が元気で、良い雰囲気を作り出すように笑顔を絶やさずに子どもたちと接して行こうといった意気込みも感じとれた。 ・特別支援教育研修会：三郷町からの参加者は昨年度から20人増となった。【成果指標②】 ・ステージ別研修：幼小中全教職員数137人中、約28%の教職員39人が受講し、講座数は延べ68講座であった。【成果指標④】 ○幼稚園 ・生駒郡幼稚園教育研究会・奈良県幼稚園教育研究協議会では、各市町村の情報交換、実践交流の場となり、研究協議の中から取り組みの反省と評価ができた。【成果指標③】 ・幼稚園教員、特別支援教育研修では、講師の講評の中から保育内容について、改善するポイントを見出すことができた。また、特別支援を必要とする幼児の対応について、療育との連携により、職員間で学び合い共通理解を深めることができた。 ○教員研修における人権教育について ・教員自身の人権感覚・意識を高めるとともに、子ども達一人ひとりを大切にする教育活動に役立てた。また、その他関係機関・団体の各種研修会にも参加した。
-------------	--

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①初任者研修	研修回数（町実施）	回	2	2	H25 — H26 —
	②特別支援教育研修会	参加人数	人	14	34	H25 — H26 —
	③生駒郡幼稚園教育研究会・奈良県幼稚園教育研究協議会	研修回数	回	23	23	H25 — H26 —
	④ステージ別研修	参加人数	人	40	39	H25 — H26 —
						H25 — H26 —

③事業の課題	【継続的な課題】 ・幼稚園については、限られたスタッフ人員で、より質の高い保育・教育内容の充実が求められる。 ・幼保小中連携については、幼稚園と小学校及び中学校の校種の違いによる教育内容や指導方法等、子どもたちが学校生活の変化に対応できるよう教員に適切な指導が求められる。 【新たな課題】 ・ICT教育環境の整備が求められる中、授業における機器の活用法などが今後新たに教員に求められる。
--------	---

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・幼稚園については、今後も教員間の情報共有を図りつつ、自己研鑽を積み重ねることが重要である。 ・幼保小中連携については、幼稚園教育と小学校教育及び中学校教育との滑らかな接続を図るため、教員相互の情報交換が重要である。また、研究授業等、校種を超えた研修などを通じて、子どもの成長を支援する取り組みを検討する。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・ハード面の整備を進めていくのと同時に、業者によるデモンストレーションなど外部の支援を借りながらICTを活用した指導方法を教員研修に取り入れていくことを検討する。
------------	---

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☒ 見直し	(内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☒ 手法見直し ☐ 休止・廃止
	・今後も研修内容を精査しながら、教職員の資質向上を図る。	

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	③就園・就学の支援	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	計画なし
基本方向	・経済的理由により、教育の機会均等が損なわれることがないように、各種補助事業を実施し、保護者の経済的負担の軽減を図ります。				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	◎小中学校就学援助【国庫補助事業】 ・経済的な理由等によって、子どもたちの就学が妨げられることのないよう、学用品費や学校給食費などを援助する。 ◎幼稚園就園奨励【国庫補助事業】 ・保護者負担の軽減及び公立・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正を図るとともに、幼稚園教育の普及充実に図るため、町立幼稚園の保育料の減免及び私立幼稚園への就園奨励費補助金の交付を行う。
---------	--

3 事業実績・結果(DDO)

事業実績・結果

◎小中学校就学援助【国庫補助】

【要保護児童生徒就学援助費】

学校名	認定者（人）	就学援助費（円）
三郷小学校	15	26,128
三郷北小学校	1	0
三郷中学校	10	122,000
合計	26	148,128

※修学旅行費のみ

【要保護児童生徒就学援助費国庫補助金】

補助金額（円）
74,000

※三郷小学校 13,000円
三郷中学校 61,000円

【準要保護児童生徒就学援助費】

学校名	認定者（人）	就学援助費（円）	給食費（円）	援助費合計（円）
三郷小学校	75	1,552,913	3,040,540	4,593,453
三郷北小学校	40	853,625	1,748,000	2,601,625
三郷中学校	74	4,171,235	3,281,750	7,452,985
区域外小学校	1	2,542	0	2,542
合計	190	6,580,315	8,070,290	14,650,605

◎幼稚園就園奨励【国庫補助】

・町内に在住し、私立幼稚園に就園する3歳児から5歳児の保護者を対象に、所得に応じて補助金を交付。

【私立幼稚園就園奨励費補助金】

園児区分	受給者（人）	就園奨励費（円）
3歳児	52	7,090,600
4歳児	72	8,271,900
5歳児	57	6,325,000
合計	181	21,687,500

【幼稚園就園奨励費補助金】

補助金額（円）
5,436,000

・町立幼稚園の保育料を負担することが困難な保護者に対して、減免措置を行った。

【町立幼稚園保育料の減免】

園児区分	減免者数(人)	減免額（円）
3歳児	4	140,000
4歳児	1	50,000
5歳児	3	48,000
合計	8	238,000

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・ 就学援助は、ほぼ前年度並みに小中学校合わせて216名を認定し、援助を必要とする保護者の経済的負担を軽減できた。【成果指標①】 ・ 認定率については、前年度の12.5%から12.3%へと推移している。【成果指標②】 ・ 幼稚園就園奨励費については、人数は前年度と同程度の189名となったが、国の改正に伴い、補助額を引き上げたため決算額は2,771,780円の増額となり、保護者の経済的負担を軽減できた。【成果指標②】 ・ 町立南畑幼稚園において、昨年、定員を割っていることや、保護者からの要望も強くあることから、本年度より兄弟姉妹の優先入園を再開した。					
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①小中学校就学援助	認定者数	人	224	216	H25 15,428,226 H26 14,798,733
		認定率	%	12.5	13.5	H25 — H26 —
	②幼稚園就園援助	受給者及び減免者数	人	187	189	H25 18,915,720 H26 21,687,500
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
③事業の課題	【継続的な課題】 ・ 小中学校就学援助の延長線上の事業として、高校進学に際しての入学支度金の支給について検討する必要がある。					
	【新たな課題】 ・ 平成27年度より施行される「子ども・子育て支援新制度」では、多子世帯への保育料の軽減措置が世帯の所得に制限なく行われるため、『公立・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正を図る』と言う観点から就園奨励費補助においても多子世帯への補助の拡充を検討する必要がある。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・ 育英振興基金の活用など、まずは財源の確保が必要である。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・ 予算作成の段階で、次年度の就園予定者数や兄弟の有無による補助額の増加等を入念に試算し、常に公立・私立幼稚園間の保護者負担の格差を是正できるようにする。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)				
	☒ 見直し	(内容)	☒ 予算拡充	☐ 予算削減	☐ 事業拡大	☐ 事業縮小
	・ 育英振興基金について、他市町村の運用方法を参考にしながら検討する。 ・ 就園奨励費の国庫補助限度額は毎年引き上げられており、本町の補助額も常に限度額に合わせて引き上げ及び拡充しているので、今後も国庫補助限度額に合わせられるよう、予算拡充を行っていく。					

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	④特別支援教育の推進	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章・第6節の③
基本方向	・学校教育において、特別に支援を要する幼児・児童・生徒について、誰もがともに学べる「なかまづくり」の教育と体制の整備を進めます。				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	○特別支援教育の推進 ・幼児・児童・生徒一人ひとりの教育ニーズを把握し、その持っている力を高め、生活や学習上の課題を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う特別支援教育を推進する。 ○教育相談 ・就学前の幼児を持つ保護者に対し、障がい等の状況に応じた適切な教育が受けられるよう教育相談を行う。 ○特別支援教育担当者連絡会 ・小中学校の連携を目的に、情報交換や就学指導のあり方を検討するため、定期的に担当者連絡会を開催。 ◎特別支援教育就学奨励費【国庫補助】 ・特別支援学級在籍児童・生徒の保護者に対し、その経済的負担の軽減を図るため、世帯の収入額が一定額以下である場合、学用品費や学校給食費などの一部を援助する。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○特別支援教育の推進 ・特別支援を必要とする幼児・児童・生徒を支援するため、町費による臨時講師等（常勤・非常勤）を各学校に配置した。 【配置講師数】 <table> <tr><td>南畑幼稚園</td><td>5人</td></tr> <tr><td>三郷小学校</td><td>5人</td></tr> <tr><td>三郷北小学校</td><td>4人</td></tr> <tr><td>三郷中学校</td><td>2人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>16人</td></tr> </table> ※再任用職員（三郷北小学校1人）を除く。 ○教育相談 ・平成26年7月に就学前の幼児を持つ保護者を対象として、斑鳩町中央公民館において生駒郡合同の教育相談会を行った。 【相談人数】 <table> <tr><td>三郷小学校区</td><td>9人（うち1人は、電話相談による児童）</td></tr> <tr><td>三郷北小学校区</td><td>10人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>19人</td></tr> </table> ○特別支援教育担当者連絡会 ・特別支援教育の充実をはかるため、情報交換と小中学校の連携を図る場として、平成21年度から小中学校の特別支援担当教員及び教育委員会事務局担当者による連絡会議を立ち上げ、平成26年度においても定期的に連絡会を開催した。（年間4回） ◎特別支援教育就学奨励費【国庫補助】 【就学奨励費認定者数】 <table> <tr><td>三郷小学校</td><td>10人</td></tr> <tr><td>三郷北小学校</td><td>17人</td></tr> <tr><td>三郷中学校</td><td>12人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>39人</td></tr> </table> ※平成26年度決算額：1,402,991円（補助額 611,000円） <table> <tr><td>（内訳）三郷小学校</td><td>327,326円</td></tr> <tr><td>三郷北小学校</td><td>548,995円</td></tr> <tr><td>三郷中学校</td><td>526,670円</td></tr> </table>	南畑幼稚園	5人	三郷小学校	5人	三郷北小学校	4人	三郷中学校	2人	合計	16人	三郷小学校区	9人（うち1人は、電話相談による児童）	三郷北小学校区	10人	合計	19人	三郷小学校	10人	三郷北小学校	17人	三郷中学校	12人	合計	39人	（内訳）三郷小学校	327,326円	三郷北小学校	548,995円	三郷中学校	526,670円
南畑幼稚園	5人																														
三郷小学校	5人																														
三郷北小学校	4人																														
三郷中学校	2人																														
合計	16人																														
三郷小学校区	9人（うち1人は、電話相談による児童）																														
三郷北小学校区	10人																														
合計	19人																														
三郷小学校	10人																														
三郷北小学校	17人																														
三郷中学校	12人																														
合計	39人																														
（内訳）三郷小学校	327,326円																														
三郷北小学校	548,995円																														
三郷中学校	526,670円																														

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が年々増加しているため、県の配置基準に加えて、町費による講師を各学校に配置している。平成26年度は16人（常勤14人、非常勤2人）配置した。内訳として、三郷小学校は常勤5人、三郷北小学校は常勤4人、三郷中学校は常勤2人、南畑幼稚園は常勤3人と非常勤2人を配置した。【成果指標①】 ・就学前の相談では、保護者の就学に対する不安を解消するため、事務局と特別支援担当の教員が相談を行うことにより、園での生活の仕方や専門機関への斡旋等、幼児の現状に応じたアドバイスができた。平成26年度も昨年度以上に相談件数があり、保護者のニーズは高いと考えられる。【成果指標②】 ・特別支援担当者連絡会議は、年間4回開催し、小中学校間の情報交換との連携を図った。【成果指標③】 ・特別支援教育就学奨励費では、昨年度から受給者の増減は無かったが、決算額では14,374円減となった。特別支援学級に在籍する保護者の経済的負担を軽減できているものとする。【成果指標④】					
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①特別支援教育の推進	配置講師数	人	13	16	H25 32,378,530 H26 39,826,873
	②教育相談	相談人数	人	14	19	H25 - H26 -
	③特別支援教育担当者連絡会	開催回数	回	4	4	H25 - H26 -
	④特別支援教育就学奨励費	就学奨励費認定者数	人	39	39	H25 1,417,365 H26 1,402,991
						H25 H26
③事業の課題	【継続的な課題】 ・特別な支援を必要とする児童・生徒に対しては、授業内容やその時の子どもたちの体調等により、別室にて適切な支援が必要となってくる機会が増えてきていることから、専属の講師を配置する必要がある。					
	【新たな課題】 ・年々、特別支援を必要とする園児・児童・生徒が増加しており、対応を検討する必要がある。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・支援が行える教室を確保し、予算等の要求・調整を図る。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・増加傾向にある特別支援を必要とする園児・児童・生徒に対して、指導・支援ができる人的確保を行うと共に、教員の専門性を向上させ、個別の教育的ニーズに応える多様で柔軟な仕組みを整備する。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)				
	☒ 見直し	(内容)	☒ 予算拡充	☐ 予算削減	☐ 事業拡大	☐ 事業縮小
	・乳幼児を含めて子どもたちや保護者等の実態や状況の変化に対応し、総合的なサポート体制を確立する。					

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑤情報・国際教育の推進	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章・第2節の③
基本方向	・校内におけるLANの整備を進めるとともに、教育用コンピュータの充実に努めます。 ・生きた外国語の学習や異文化への理解を養うため、ALT制度の充実を図ります。				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	○校内LAN・教育用コンピュータの整備 ・小学校については平成19年度に、中学校については平成21年度に整備した教育用コンピュータ及び校内LANを活用し、積極的に情報教育を推進する。 ○ALT派遣 ・生きた外国語の学習や異文化への理解を養うため、各小中学校へALTの派遣を行う。 ・南畑幼稚園においても、幼児期からの国際理解や英語教育を図るため、ALTとの交流会を行う。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果

○教育用コンピュータ等の設置状況

種 類	設 置 台 数 (台)			
	三郷小学校	三郷北小学校	三郷中学校	合計
サーバ	1	1	2	4
クライアントPC (デスクトップ)	20	15	42	77
クライアントPC (ノート)	1	6	6	13
プリンタ	10	10	7	27
プロジェクタ	1	1	3	5

	三 郷 小 学 校	三 郷 北 小 学 校	三 郷 中 学 校
整備年度	平成19年度	平成19年度	平成21年度
設置場所	南館2階パソコンルーム	北館2階コンピュータ教室	B棟4階コンピュータ室
LAN※整備	各教室	各教室	各教室

※LAN: Local Area Networkの略語。特定の場所や同一組織内での情報通信ネットワーク。

○ALT※派遣

- ・年間を通じて三郷中学校に1名、各小学校及び幼稚園に1名の計2名のALTの派遣を行い、英語学習・異文化理解等の活動を行った。活動時間等は下表のとおり。

	対象	クラス数<A>	年間時間数(時間)	合計時間数(時間)<A>×
三郷中学校	1年生	6	35	630
	2年生	6	35	
	3年生	6	35	
三郷小学校	5年生	3	35	210
	6年生	3	35	
三郷北小学校	5年生	3	35	210
	6年生	3	35	
南畑幼稚園	年 長	1	8	8
合 計		31	253	1,058

※ALT: Assistant of Language Teacherの略語。学校で外国語授業の補助を行う外国語指導助手。

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○教育コンピュータの設置状況 ・平成19年度から平成21年度までの整備期間で、パソコン90台、周辺機器36台を新規設置し、町内すべての学校で情報教育の充実を図るための環境が整った。 ○ALT派遣 ・平成23年度より、新学習指導要領が完全実施され、小学校5・6年生の外国語活動が必須となったことから、小学校において各クラス年間35時間（授業コマ数）の派遣時間を引き続き確保。 ・平成23年度より中学校で1名、幼稚園・小学校で1名の合計2名体制へと変更し、全校の年間合計授業時間においては、昨年度より小学校で1クラス減ったことにより、35時間減の1,058時間となったが、本年度もALT派遣に係る経費を確保することができた。【成果指標②】
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①教育用コンピュータの整備	新PC設置済み台数	台	90	90	H25
		小中学校合計				H26
	②ALT派遣	ALTによる授業時間	時間	1,093	1,058	H25 7,483,770
		幼稚園・小中学校合計				H26 7,613,298
						H25
						H26
						H25
					H26	

③事業の課題	【継続的な課題】 ・小学校の教育用コンピュータについては、平成19年度設置以降7年が経過している。さらなる情報教育の充実を図るためにも、入替を検討する必要がある。
	【新たな課題】 ・平成28年度にICT（情報通信技術）教育の導入を検討しており、ICTの活用に伴う授業の質の向上に向けた取り組みを検討する必要がある。

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・三郷小学校、三郷北小学校、三郷中学校のコンピュータについて、財政状況を勘案しながら入れ替えも含め検討している。
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・ICT教育における授業の質の向上に向けた取り組みについては、教員の資質向上のため研修等の実施を検討する必要がある。また、三郷中学校改築に伴うICT教育機器整備については、ソフト面も考慮し、計画的に導入する。

6 今後の計画・方向性(PPLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☒ 見直し	(内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☒ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止・廃止
	・情報教育については整備済みの校内LAN・パソコン環境を再度見直し、情報教育を推進するための環境を整える。 ・今後も財政状況を勘案しながら派遣回数検討を加える。また、児童・生徒が英語に興味を持つような指導を行えるALTの派遣を常に意識して事業を進めていく。 ・ICT教育の導入について、今後、検討していく。	

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑥いじめ・不登校の対策	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章・第2節の⑤
基本方向	・小中学生を対象とした専門機関によるメンタルヘルス相談や、中学校への心の相談員の配置による「いじめ」や不登校児童生徒の早期発見・早期指導の実施を継続します。 ・教職員経験者など地域の人材の参加を得ながら、多様な教育の展開ができるよう、広域的な連携を含めた支援のあり方を検討します。				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	いじめ・不登校対策として、奈良県が実施するスクールカウンセラー事業を活用しながら、町独自で心の相談員を配置するとともに、専門機関にメンタルヘルス相談業務を委託し、児童生徒の悩みに対して、適切かつ迅速に対応し、児童生徒が安心して学習に取り組むことができるよう相談体制の充実を図る。 ◎スクールカウンセラー活用事業【県費】 いじめや不登校などの対策として、学校におけるカウンセリング機能を強化するため、臨床心理士などの資格を持ったスクールカウンセラーを中学校に配置する。 ○心の相談員 生徒の悩み、不安、ストレスに対し、気軽にカウンセリングできる心の相談員を中学校に配置する。 ○メンタルヘルス相談業務委託 園児及び小中学生とその関係者のメンタル面での相談業務を専門機関に委託し、健やかな心身の保持増進に努める。 ○不登校対策連絡会 町立の小中学校における不登校問題を総合的に検討し、不登校の防止及び指導に努め、児童及び生徒の健やかな育成を推進する。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	◎スクールカウンセラー活用事業【県費】 ・三郷中学校へ1人配置 年間勤務日数 21日 相談ケース数 ①児童生徒：38回 ②保護者：4回 ③教職員：5回 合計：47回 - 主な相談内容 不登校への対応、学校生活、友人関係など ※児童生徒へのカウンセリングのほか、教職員などへの助言も行った。 ※その他、全校生徒を対象にストレスチェックのアンケートを実施。 ○心の相談員 ・三郷中学校へ1人配置 年間勤務日数 101日 相談ケース数 231回 主な相談内容 不登校問題、学校生活全般、本人に関わる問題など ○メンタルヘルス相談 ・園児及び児童生徒、保護者、教職員の相談に対応するため、ハートランドしぎさんに委託し、専門機関による相談を行った。 相談ケース数 ①園児児童生徒：95回 ②保護者：79回 ③教職員：94回 合計：268回 ※延べ回数で計上。 ○不登校対策連絡会 ・不登校の児童生徒の実態把握とその後の現況報告並びに対応について協議・検討を行った。 年間開催回数 9回 ○不登校を語る保護者の集い ・平成26年度は3回実施。天理大学大学院教授から、保護者に様々な助言がなされた。 主な内容 ・子どもが登校に向けてエネルギーをためていることをまわりの大人が理解し、待つということが大切。 ・保護者の悩みを誰かに聞いてもらうことで、子どもに良い影響を及ぼす。 参加人数 12人 ※延べ人数
---------	---

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。					
	- 平成26年度の不登校児童生徒数は、対前年度比1人減の33人であった。 (不登校：年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの) - いじめや不登校、その他生徒の抱える問題が多様化してきた中で、三郷中学校では、 ①専門的なカウンセリングができるスクールカウンセラーの配置【成果指標①】 ②生徒の悩みを気軽に相談できる心の相談員の配置【成果指標②】 ③専門機関での相談を行うためのメンタルヘルス相談業務の委託【成果指標③】を実施し、生徒の状況に応じた相談を行った。 - 中学校では、全校生徒を対象に「こころとからだのアンケート」を年2回実施した。教育相談部に属するカウンセラーが、各学年の気になる生徒に関して各学年相談部と情報交換を密にし、スムーズな相談の継続ができるように工夫していただいた。ストレス度がかなり高い生徒に関しては、担任や教育相談部から声をかけることで定期的なカウンセリングにつなげることができ、生徒の間でも相談室が「いつでも話ができる場所」としての認識がより広まった。 - 小学校においては、児童の悩み等を教員が親身になって相談に乗り、必要に応じてメンタルヘルス相談を紹介し、専門機関での相談へと引き継ぐ体制をとっている。また、急を要する場合には、児童の心理面での不安定さを改善させるため、中学校に配置している心の相談員を小学校へ派遣し早期解決につなげる体制もできている。 - 心の相談員の相談回数が増加しているのは、相談員がいることについて生徒の間で認識が広まり、気軽に相談できる雰囲気作られ、早期段階での生徒の悩み等解消に向けた教員と相談員との連携が取れたため。保護者からの相談に対しても、カウンセラー等に相談しやすい状況が作られたことで、教員が余裕をもって関わることもできた。 - メンタルヘルス相談回数は、対前年度約1.7倍の268回であった。増加の主な要因としては、月1回小学校でのカウンセリングを行ったこと、保護者・教職員からの学校生活や発達の問題に関する相談回数が大きく増えたことが挙げられる。 - 心の相談員報酬の決算額は、昨年度より119,463円の増加となった。 - 不登校の児童及び生徒の実態把握、指導体制の整備、家庭との連携強化について協議及び検討を行った。 【成果指標④】					

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①スクールカウンセラー（県費）	相談回数	回	72	47	H25 - H26 -
	②心の相談員	相談回数	回	161	231	H25 1,145,415 H26 1,264,878
	③メンタルヘルス相談業務委託	相談回数	回	157	268	H25 570,000 H26 0
	④不登校対策連絡会	開催回数	回	8	8	H25 1,193,880 H26 1,952,791

③事業の課題	【継続的な課題】 ①不登校児童・生徒などを孤立させない対策として、不登校対策連絡会を引き続き実施するとともに、通学支援・学習支援を継続していく必要がある。 ②カウンセラーや相談員は中学校に配置されており、小学校でのケースにも充分対応できるような体制づくりを検討する。					
	【新たな課題】 ・相談件数が明らかに増えていることから、児童生徒がより話しやすい環境づくりが必要である。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①不登校対策連絡会については、指導主事を1人増員して2人体制で行い取り組みの強化を図った。また、教育委員会及び学校関係者や要保護児童対策地域協議会、行政関係機関等との連携・協力のもと、的確な対策を検討する。 ②ケースに応じてカウンセラーや相談員を小学校にも派遣する等、柔軟な対応を検討する。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・平成27年度より月に1回小学校において相談業務を実施するなど、相談機会を増やすことを検討する。また、増加傾向にある相談件数に対応するため、例えば相談員を増員するなど、より一層の相談体制の充実を図る。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)				
	☒ 見直し	(内容)	☒ 予算拡充	☐ 予算削減	☒ 事業拡大	☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止・廃止
- 今後も不登校問題をはじめ、児童・生徒のさまざまな課題に対応するため、相談体制の充実を図るとともに、状況に応じて、スクールソーシャルワーカー等の活用も検討する。 - 不登校対策として専属配置した指導主事を中心に不登校対策の取り組みを充実させていく。また、保護者のつながりを深める支援を行っていく。						

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑦地域の教育力の向上	担当課名	教育総務課 (生涯学習課)	総合計画位置づけ	第1章・第2節の⑦
基本方向	・地域と学校が協力しながら、地域の文化や人材を活かした体験学習を継続します。 ・まち全体が学びの場となるまちづくりをめざして、子どもたちの学習に提供できる場所や資源などの掘り起こしとネットワークの体制強化を図ります。 ・学校の環境美化や緑化などについて、各種団体や地域ボランティアの参加が得られるように図ります。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	◎子ども人権学習支援事業 ・少子化や核家族化の進行、就労形態の多様化及び家庭や地域の子育て意識の低下など、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、子どもの様々な活動を支援する事業を実施し、地域の教育力の向上を図る。 ・各小中学校において、地域ボランティアの指導のもと、和太鼓、調理実習、ゲートボールなどさまざまな体験学習を実施する。 ◎学校支援地域本部事業 ・学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的に、学校が必要とする活動について、地域からボランティアを募り、学校の教育活動を支援する。 ◎上記2事業が平成23年度より、「学校・地域連携事業」として一本化された県補助事業となっており、1,000,000円の補助金を、5：5で両事業へ振り分けを行った。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果

◎子ども人権学習支援事業（活動実績）

活動名称	学校名	登録人数	実施回数	活動内容	担当課
どんどん和太鼓	三郷中学校	9人	30回	和太鼓の演奏	生涯学習課
クッキングクラブ	三郷中学校	7人	8回	調理実習	教育総務課
多聞クラブ	三郷小学校	15人	16回	ゲートボール体験	教育総務課
ふれあいクラブ	三郷小学校	38人	17回	和太鼓の演奏	教育総務課 ふれあい交流センター
親子で遊び隊	三郷小学校	35人	2回	デイキャンプ	教育総務課
にこやかクラブ	三郷北小学校	16人	13回	手話コーラス	教育総務課
つながり学級	三郷北小学校	40人	7回	軽スポーツ、お茶、調理実習など	生涯学習課

※各活動の指導には、地域住民や各種団体の方に協力をしていただいた。

◎学校支援地域本部事業

・この事業は、平成20年度から3年間の文部科学省委託事業で実施し、平成23年度からは町が実施主体となり補助事業で実施している。7年目となった平成26年度も、前年度までの活動実績を基本としながら下表のとおり、多様で充実した活動を行うことができた。

＜主な活動実績＞

学校名	活動内容
三郷小学校	緑化推進活動、朝の登校見守り、運動会準備、卓球・一輪車クラブ支援、図書支援、新1年生の下校安全見守り、本の読み聞かせ、パソコン学習支援、昔遊び、英語学習支援、校区探検、陸上記録会練習、家庭科実習(被服・調理)支援、音楽会楽器指導補助、平和学習支援、多聞号清掃など
三郷北小学校	緑化推進活動、わくわく農園・ケーブルカーの開放、施設管理、図書支援、新1年生の下校安全見守り、昔あそび、本の読み聞かせ、英語学習支援、校区探検、パソコン学習支援、そろばん支援、琴の鑑賞・体験、家庭科実習(被服・調理)支援、田植え・稲刈り支援、平和学習支援など
三郷中学校	家庭科実習(被服)支援、図書支援、花壇への灌水など

＜ボランティア登録人数

・個人登録：148人 団体登録：34人 合計：182人(前年度比+61人)

＜その他＞

内 容	開催場所	開催日	参加人数
天体観測会	三郷北小学校	8月 5日(火)	10人
ボランティア給食会	三郷北小学校	1月20日(火)	38人
	三郷小学校	1月29日(木)	17人

※天体観測会はあいにくの曇り空のなかでの開催となったが、時折見える月を望遠鏡で観測できると歓声があがり、参加者には大変好評だった。

※給食会は学校事業「昔あそび」に合わせて、日ごろから支援いただいている多くのボランティアの方々に参加していただくことができた。

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ◎子ども人権学習支援事業 ・地域の方や各種団体の方からご指導いただき、さまざまな体験を通して、世代間の交流や目標に向かって努力する姿勢を学ぶことができた。 ・募集人数に対して、適切な人数の希望者となり、より良い環境で活動ができた。 ◎学校支援地域本部事業 ・事業開始から7年目となり、登録者数の伸びは緩やかではあるが前年度比19人増と着実に増加している。 ・100%国負担の国委託事業から、県の補助事業となり4年目を迎えたが、平成25年度と同様に事業の縮小を招かないよう町で予算計上を行う事で事業を継続することができた。 ・三郷北小学校コーディネーターの働き掛けにより、奈良学園大学人間教育学部と連携して様々なボランティア活動に参加していただけるようになった。両小学校の「昔あそび」には、それぞれ10名程度の学生に参加していただき、児童たちにとって非常に充実した体験授業となった。教職員を目指す学生たちからは実践的なボランティア活動ができた、大変好評だった。					
-------------	---	--	--	--	--	--

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①子ども人権学習支援事業	参加人数（延べ人数）	人	2,008	1,770	H25 1,620,574 H26 1,436,137
	②学校支援地域本部事業1	ボランティア登録人数	人	243	182	H25 1,235,259 H26 1,342,521
	③学校支援地域本部事業2	ボランティア参加人数 (各学校計・延べ人数)	人	1,640	1,526	H25 H26
	※上記③参加人数については、日常的なボランティア活動を含まない。					

③事業の課題	【継続的な課題】 ・子ども人権学習支援事業の参加人数が少ない講座の募集方法、内容の検討。 ・学校支援ボランティアの登録人数を増やす事。					
	【新たな課題】 ・募集パンフレットに掲載しているボランティアの活動項目が多岐にわたって細分化されており、現在の活動状況と一致していない部分があるため、新規登録者にとってわかりにくくなっている。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・アンケート等を行い、児童・生徒にとってやりがいのある講座となるように講座内容の検討・改善を進める。 ・新しい学校支援ボランティアの募集パンフレットを小・中学校の児童・生徒を通じて各家庭へ配布を行ったが、保護者世代の登録者増加にはつながらなかった。毎月の広報誌に合わせて、各自治会に対しパンフレットを回覧することでより多くの町民に対しての周知徹底と各種生涯学習講座参加者の活用や各学校のコーディネーターを中心にした地域の人材発掘に努めるとともに、奈良学園大学とのネットワークの構築を検討し、新規登録者の増加を目指す。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・ボランティアの新規登録者の増加に向けて、現在のパンフレットの活用と募集項目の更新を検討し、登録者名簿の整理を行う。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)				
	☒ 見直し	(内容)	☒ 予算拡充	☐ 予算削減	☒ 事業拡大	☐ 事業縮小
	・子ども人権学習支援事業は、茶華道クラブに変わってクッキングクラブが新たに開講され、前年度と同規模を維持して継続することができたので、今後も募集方法や内容を常に見直しながら継続していく。 ・学校支援地域本部事業については、ボランティア登録者数の増加を最優先事項とし、奈良学園大学との連携等の新しい形態にも積極的に取り組んでいく。					

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑧安全・安心の学校づくり	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章・第2節の⑥
基本方向	・学校と地域の連携を深め、「子ども見まもり隊」をはじめとした地域ぐるみの見まもり活動の展開を支援し、情報交換の場の設置を図ります。 ・子どもの安全を守るため、パトロールや巡視などの対策を継続するとともに、不審者情報メールの配信を充実し、万が一の際にも迅速に対応できる体制の整備を図ります。 ・園児・児童に対する防犯・交通安全教室を開催し、自ら身を守ることができる教育を進めます。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	◎子ども情報ネットさんごう ・子どもの安全確保を目指し、不審者情報等を登録者の携帯電話等にメール配信する。 ◎さんごう子ども見まもり隊 ・学校と地域の連携により、自治会を中心とした住民ボランティアの皆様にご協力いただき登下校時の通学路の見まもりを行う。 ・上記にあわせてシルバー人材センターに委託し、小学校の下校時に安全巡視員を通学路に配置し、児童の安全確保を図る。 ◎青色防犯パトロール ・小中学校の下校時にあわせて、町内を巡回する青色防犯パトロールを実施する。 ◎防犯・交通安全教室 ・小学校及び幼稚園において、警察の協力により、防犯・交通安全教室を開催する。 ☆子ども110番の家（町長部局環境政策課所管事業：参考掲載「☆」印で示しています。） ・子どもが犯罪などの被害に遭った、または遭いそうになったと助けを求めたとき、子どもを保護し、関係機関へ連絡するなどして、子どもの安全を守る。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果

◎子ども情報ネット配信状況

不審者内容	件数	町内件数
声掛け	8	5
つきまとい	4	2
露出	6	1
痴漢	2	2
盗撮	1	1
傷害・犯罪	0	0
不審電話	0	0
その他	1	1
合計	22	12

【配信内容】

・三郷町及び近隣町で発生した子どもに関わる事件や不審者情報を、登録者へメール配信する。

【メール登録人数】

・児童や生徒の保護者、各種団体、関係団体などあわせて777人。（平成27年3月末現在）

◎さんごう子ども見まもり隊

【見まもり隊登録団体及び登録者数】

登録団体の種類	団体数	登録者数(人)
自治会	13	174
学校関係	7	115
各種団体	15	170
町議会	1	10
町関係	1	9
個人	1	15
合計	38	493

【子どもの安全対策連絡会議】

・地域との連携及び情報交換を図る場として子どもの安全対策連絡会議を各学期ごとに年3回実施。

◎下校時巡視委託

・通学路の危険箇所に安全巡視員（シルバー人材センター）を配置し、各学校の登下校時及び放課後児童クラブの下校時における交通指導及び巡視を行った。

①三郷小学校：5人（うち放課後児童クラブ2人）

②三郷北小学校：4人（うち放課後児童クラブ2人）

◎青色防犯パトロール

・子どもの安全を守るため、小中学校の下校時にあわせて、役場全課の交代制により、町内を巡回する青色防犯パトロールを実施した。

①三郷小学校校区：年間47回

②三郷北小学校校区：年間45回

◎防犯教室など

・各学校・幼稚園にて防犯教室を開催した。

・警察の協力により、新小学校1年生に防犯ブザーを配布した。

☆子ども110番の家

・登録世帯数：668世帯（自治会、学校関係、各種団体など）

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・町全体で子どもの安全対策に取り組んできた結果、昨年度に続き平成26年度においても、子どもの生命や身体に危害を及ぼす重大な犯罪被害はなかった。 ・幼稚園や学校では参加型の研修として防犯教室を毎年実施しており、子どもたちにとっては自分の身を守ることにに対する良い意識づけの機会となっている。 ・平成25年度より検討事項となっていた三室地区の通学路について、地域の方々や自治会長・保護者など多くの地域住民と協議を行い、西和警察署及び郡山土木事務所の協力の下、新たな横断歩道が設置された。これにより、児童たちにとってできるだけ距離的負担が少なく、安全な通学路に変更することができた。 ・本年度末に町道勢野北美松ヶ丘線が開通したことにより、勢野北地域周辺の児童の通学時間が短縮された。					
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①子ども情報ネット配信	メール登録者数	人	763	777	H25 63,000 H26 64,800
	②子ども見まもり隊	見まもり隊登録人数 (累積人数)	人	479	493	H25 30,220 H26 0
	③巡視委託	巡視回数(両小学校年間合計・延べ回数)	回	2,871	1,975	H25 2,420,560 H26 2,460,150
	④青色防犯パトロール	パトロール回数	回	92	92	H25 0 H26 0
						H25 0 H26 0
						H25 H26
③事業の課題	【継続的な課題】 ・子ども見まもり隊において、協力団体(地域)による温度差がある。 ・放課後児童クラブの下校時の見まもり隊の参加が少ない。					
	【新たな課題】 ・平成27年度より「勢野北美松ヶ丘線」の供用開始に伴い、勢野北地区の児童の通学路が大きく変わり、新しい交差点を通ることになるので、見守りボランティアの協力が必要である。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・子ども見守り隊について、学期毎の活動報告と活動目的を関係会議において周知するとともに、自治会に対してより一層の協力を依頼し、それにより地域格差の解消に努める。 ・放課後児童クラブの下校時間及び見まもり活動の必要性について関係会議等において周知し、子ども情報ネットさんごうへの登録を依頼する。また、シルバー人材センター安全巡視の人員拡充を考える。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・関係会議等において新たな通学路や登下校時の危険性を常に周知し、協力を仰ぐ。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)				
	☒ 見直し	(内容)	☒ 予算拡充	☐ 予算削減	☐ 事業拡大	☐ 事業縮小
	・今後も町全体の取り組みとして、地域との連携を図り、事業の拡大を目指す。 ・子ども情報ネットや、子ども見守り隊への協力依頼・周知方法を再検討し、登録人数を増やすよう努める。					

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑨学校給食体制の整備	担当課名	給食センター (教育総務課)	総合計画位置づけ	第1章・第2節の④
基本方向	・長年の懸案であった新給食センター建設の年度内の完成を目指します。 ・「学校給食衛生管理基準」に基づき、学校給食における衛生管理の徹底を図ります。 ・「食育」の一環として、学校・幼稚園における給食指導を継続します。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	○安全安心な学校給食 ・職場の衛生管理そして職員の健康管理等を行うとともに、安全安心な給食材料を使用する観点から、より多くの地場産の野菜等を使用して安全安心の学校給食を提供する。 ・職員の資質向上を図るため、県の調理員研修に参加する。 ○食育の推進 ・正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食事を通して自らの健康管理ができるようにするために、食の指導の充実を図る。 ○新給食センターの運営方法 ・新しい給食センターにおいて、給食の提供を平成27年9月から開始するにあたり、調理・配送等業務を町による直接運営か、民間委託とするのかを検討する。 ・新しい給食センターにおいて、平成27年9月から給食の提供開始に併せて、食物アレルギー対応を行うか検討する。 ○放射能測定器による食材検査 ・幼児、児童、生徒へ安全な食材を使用した給食を提供するため、国の原子力災害対策本部が指示した出荷制限対象となる17都県を産地とする食材についての検査を実施する。 また、食品中の放射性物質に係る国の検査基準値（セシウム134及びセシウム137の総和の量）は、一般食品が100Bq/kg以下。牛乳が50Bq/kg以下と示されているが、当町の検査の測定下限値は、すべて40Bq/kg以下とし測定下限値を超えた食材は使用しないことにより安心・安全な給食の提供に努める。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○安全安心の学校給食 ・町内公立幼稚園・小中学校において、センター方式による学校給食を実施している。また、幼稚園・小中学校で保護者を対象に給食試食会を実施し、186人が参加した。 ・児童生徒に安全・安心な学校給食を提供するため、できる限り、国内産食材を使用し、また、地産地消の観点からも、県学校給食会推奨食品や信貴山のどか村の旬の野菜を積極的に使用した。 ・県が実施している調理員研修にも積極的に参加して、職員の資質の向上に努めた。 ①学校給食衛生管理指導者実技講習会（7月29日(火)） 参加人数：2人 ②学校給食調理員研修会（8月21日(木)） 参加人数：8人 ○食育の推進 ・食育については、各学校で食に関する指導の全体計画を作成し、実践している。具体的には、生活科・家庭科・総合的な学習の時間における食に関する指導や給食に関わる指導を実施した。 【内容】 ・教科等授業時間数： 12時間 ・給食指導時間数： 7時間 ・個別指導その他： 10時間 ○給食費の滞納状況 ・徴収業務の内容は、文書による督促通知、及び電話・家庭訪問による交渉を行い、これらに応じない滞納者に対しては、最終通知として奈良簡易裁判所への支払督促申立等を行う旨を記載した文書の送付を行うなど、滞納の解消に努めた結果、昨年度より滞納繰越額が減少した。 【平成26年度末現在滞納状況】 ①滞納繰越額(平成21年度～平成25年度) 485,333円 (19人) ②徴収額 229,400円 (10人) ③平成26年度末滞納繰越額 255,933円 (11人) ④平成26年度分滞納額（現年度分） 72,000円 (6人) ☆平成26年度滞納繰越額（合計） 327,933円 (17人) ○新給食センターの運営方法 ・新しい給食センターにおける調理・配送等業務について、慎重に協議、検討を行った結果、民間委託へ移行する方向で調整することとなった。また、業者選定方法は、公募型プロポーザル方式（企画提案方式）とし、委託業者を選定することとした。 ・食物アレルギー対応の実施について、教育委員会において協議、検討を行った結果、新しい給食センター運用開始時に併せて、食物アレルギー食対応を実施することとし、本事業の充実を図るため、平成27年度から新たに町栄養士1名を雇用することとした。 ○放射能測定器による食材検査 ・幼児、児童、生徒へ安全な食材を使用した給食を提供するため、平成24年3月1日より放射能検査測定器による食材検査を実施した。 【検査数】 1学期 113品 2学期 159品 3学期 93品 - 合計検査数 365品 ※放射性セシウム 不検出 すべて、40Bq/kg以下
---------	--

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・本年度末に新給食センターが完成した。当該給食センターは、学校給食はもとより、食育の推進としての玉ねぎの苗植えから収穫まで体験する「教育ファーム実践事業」や太陽光パネル、ガスコージェネレーションを活用した環境への配慮、また、平成27年度に耐震性貯水槽を設置し、福祉避難所も併設した防災拠点としての機能を有した施設とした。 ・地産地消の推進を図りつつ、安全安心な学校給食を実施できた。 ・夏休み等を利用し、調理員の研修を重点的に行き、資質向上を図ることができた。 ・給食試食会や食育指導事業を通じて、給食に対する理解が深められた。【成果指票①②】 ・給食費の滞納整理は、平成25年度末での滞納額が滞納繰越額485,333円から平成26年度末では327,933円となり、平成25年度に比べて、157,400円の減となった。 徴収方法は、保護者の経済的理由により納付困難であるケースも多いが、再三にわたる保護者との協議、及び各々支払期限毎の電話による確認作業、並びに家庭訪問による交渉である。【成果指標③】 ・新給食センターの調理・配送等業務について、民間委託を実施する方向で公募型プロポーザル方式（企画提案方式）により業者選定を行うこととし、食物アレルギー対応の実施については、平成27年9月から新給食センターでの給食の提供開始に併せて、食物アレルギー対応を実施するなど、新給食センター運営の方向性が明確化することにより、安全安心な学校給食の提供に繋がる。【成果指標④】					
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①給食試食会	参加人数	人	189	186	H25 — H26 —
	②食育指導	延べクラス数	クラス	29	33	H25 — H26 —
	③給食費の滞納整理	滞納者数（年度末）	人	19	17	H25 485,333 H26 327,933
	④新給食センターの建替事業	本体建設費及び厨房設備等工事費用	円	—	1,122,168,600	H25 — H26 1,122,168,600
	⑤食品放射能測定器による食材検査	年間検査数	品	350	356	H25 — H26 —
③事業の課題	【継続的な課題】					
	①給食費の徴収については、現年度分の未収が毎年発生している。また、過年度分についても、減少できるよう、滞納者への交渉等をより一層強化する必要がある。					
	【新たな課題】					
	①新給食センター調理・配送等業務委託する方向で検討し、事業者を公募型プロポーザル方式（企画提案方式）により業者選定を行うこと。 ②食物アレルギー対応の実施するにあたり、三郷町立学校給食センター運営委員会において教育委員会の提案内容の協議、検討を行い、実施するための準備を進める。 ③新給食センターの運用開始に伴い、今まで以上に食育と地産地消の推進を行う。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】					
	①給食費の滞納については継続的な課題であり学校から保護者に働きかけるとともに、給食センターからも定期的に働きかけることとする。また、児童手当が支給されていることから、給食費を児童手当から納付することができることも周知する。 過年度分の滞納で再三の督促に応じない滞納者に対しては、奈良簡易裁判所への支払督促の申立てを粛々とすすめ、給食費の滞納を解消する。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】					
	①食物アレルギー対応については、新たに町栄養士1名を雇用することにより、県の栄養士とともに学校、保護者と面談等を行い、平成27年9月の実施に向けて体制を整える。 ②食育と地産地消の推進について、タマネギの苗付けから収穫までの体験学習を、農業委員会の指導と協力を得ながら、三郷小学校及び三郷北小学校の4年生を対象として実施する「教育ファーム実践事業」を推進し体制を整える。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・ 今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)						
	☒ 見直し	(内容)	☐ 予算拡充	☐ 予算削減	☒ 事業拡大	☐ 事業縮小	☒ 手法見直し	☐ 休止・廃止
	・今後も地産地消を推進し、安全安心な学校給食を実施する。 ・給食費の滞納については、引き続き学校と連携・協力しながら、現年度分の未納解消に努め、再三の督促に応じない滞納者には、法的措置を講じることで滞納の解消を図る。また、滞納が減らない要因には、生活保護申請前の滞納がある。この部分については、私債権を取り扱う課により、公債権のように不納欠損処分ができる内容の条例等を設置するなどの検討協議が必要である。 ・教育ファーム実践事業の推進については、農業委員会の指導及び協力を得ながらタマネギの苗付けから収穫までを子ども達自身が体験し、「食」について改めて意識を高め、自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めつつ、その収穫したタマネギを、給食食材として使用することにより、食育と地産地消の推進に繋げることを目的とし実施する。							
	予定としては、平成27年9月に種まき。11月下旬から12月初旬に苗植え。平成28年5月初旬から中旬にかけて、収穫を行なう。また、収穫したタマネギを、保管するため平成27年度中に新給食センターの敷地内に『タマネギ小屋』を設置する。							

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑩幼児教育の充実	担当課名	南畑幼稚園 (教育総務課)	総合計画位置づけ	計画なし
基本方向	・幼稚園教育要領に基づく、適切な教育課程の編成を行います。 ・幼児の心身の発達と義務教育及びその後の教育の基礎を担う幼児教育の充実に努めます。 ・地域に信頼される開かれた幼児教育を推進します。				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	・幼児が、自然な生活の流れの中で直接的・具体的な体験を通して社会・文化・自然などに触れ、豊かな感性を育み、生きる力の基礎を培う環境の構成に努める。 ・幼児一人ひとりの特性に応じ、発達の課題を見極め、個々の成長を援助し、幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわしい生活を通して育てることで円滑に小学校へ移行できるようにする。 ・保護者や地域の方々に信頼される幼稚園を目指して、幼稚園の機能を活かして預かり保育や園庭開放・教育相談を行い子育て支援に努める。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○バザー及び模擬店（やまびこ祭） ・PTA事業として、協力体制・実施方法・改善方法をPTA役員と協議しながら7月5日(土)に実施した。 ○奈良県教育週間（11月） ・奈良県幼稚園教育研究会による子ども作品展の実施、出展。 ・地域の教育力の向上と地域に開かれた幼稚園づくりを目的に、教育講演会と保護者が保育参加する幼稚園ウィークを実施。 【内容】 11月13日（木）・・親子ふれあい遊びと教育講演会「自分が好き・人が好き・未来を拓く子どもたち」という演題で地元小学校長を招き、講演会を実施。 11月18日（火）・・親子で幼稚園周辺を散策しながらウォークラリーを楽しむ。 ○特別支援教育 ・特別な支援を必要とする園児への対応として、個別指導計画の作成と保護者や関係機関との連携に努めた。また、職員のスキルアップや幼児理解を深めることを目的に定期的に臨床心理士や作業療法士・巡回アドバイザーを講師に招き、園内研修を行った。 ○食育の推進 ・毎月一回、手作り弁当日を設定し、保護者に食育の大切さを考えていただく機会としている。 ・5月16日(金)、職員による食育のお話をクイズなどを交えながら、わかりやすくパワーポイントを使って行い、親子で参加するイベントを実施。その後は、給食参観と試食会を実施した。 ・学校給食センター栄養士による、保護者参加の食育に関する講演会を実施した。 ・2月誕生会には、町栄養士会の方々により幼児向けにクイズやゲームを交えながら三色栄養など食育に関するお話をしていただいた。 ・5歳児が中心となり、園内菜園を行い、収穫した野菜などを使ってカレー作りを実施。また、地域の方に筍掘りを体験させていただき、収穫した筍を調理したり、園内で園児が栗拾いをしたものをゆでて食べたり、梅の実を収穫して梅ジュースや梅干をつくるなど身近な食材にかかわる機会を多く持つようにした。 ○子育て支援及び預かり保育 ・保育終了後に園庭を開放して、園児の成長を共有するために、保育内容の理解や家庭教育の啓発、子育て相談を行う「にこにこランド」を年間7回実施した。 ・家族の通院や介護、兄や姉の授業参観等のほか、緊急的な保護者の就労時間の延長等も含めて、緊急又は臨時的に降園時刻以降の保育が必要な場合に、個々の事情にできる限り対応し、預かり保育を行った。 ○ALTとの交流(年間8回) ・年長児がALTと一緒に歌や遊びなどの交流する中で、外国語や異文化に触れ、コミュニケーションの楽しさを感じることができた機会となった。
---------	--

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・PTA事業のバザー及び模擬店は保護者の負担が大きいなどの意見もあり、保護者の意識の変化により開催の仕方を検討する必要があるが、PTA役員からは、開催以後の達成感につながっていることやまた保護者間の連帯感や関係作りに役立っているように思われる。目的の異なる保護者主催のバザーと夏の園行事としての幼児の活動を切り離して考えてみるなど見直しが必要である。 ・預かり保育については拡充を求める声もあるが、現状維持で対応し、できる限り保護者のニーズに応えられるようにすることで一定の理解を得られている。 ・園庭開放「にこにこランド」は趣旨などを理解していただき、定着してきたと思われる。小学生がいる家庭の参加は曜日によって参加しづらいようで、そのことに対しては、できるだけ曜日を限定せず行ってきたが参加人数は伸び悩む。内容を工夫しメリットを感じてもらえるよう充実させたい。 ・地域の方の協力も得て店頭に並んでいる食材ではなく、収穫するところから体験することが出来たことは食欲にもつながるなど、教育的意義が大きく貴重な体験となった。					
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①預かり保育	実施回数	回	30	42	H25 H26
	②園庭開放「にこにこランド」	実施回数/参加人数	回/人	4/437	7 /568	H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
③事業の課題	【継続的な課題】 ①地域の実態や保護者の実情を考慮しながら、保育時間や日数、預かり保育について配慮すること。 ②園庭開放「にこにこランド」では、小学生の兄弟・姉妹をもつ家庭の参加は参加しづらいことから回数を増やし、曜日の設定を変則的にして配慮をしたが、今後は、マンネリ化せず興味関心を持って参加していただけるような内容の工夫が課題である。 ③同じ町内の子どもを預かる施設として、さらに幼保の連携を積極的に進め意見交流や研修を重ね、幼保がともに小学校への円滑な接続に連携していく必要がある。					
	【新たな課題】 ・保育時間の延長を望む声が保護者からあがってきている。今後の検討課題としたい。 ・毎年、臨時職員が交代する現状があり、人的確保と保護者に信頼される園づくりが求められる。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①保育時間の拡充や預かり保育の弾力的な運用については厳しい状況であるが、できる限り柔軟に対応できるように人員の配置を含めて今後も検討していく必要がある。 ②バス通園であることから、保護者への啓発や連携を密にするための方法を工夫する必要があるが、保護者の多様なニーズを聞き取りながら円滑にコミュニケーションを図るためにどのように対応していくかは今後も検討していく必要がある。保護者と信頼関係を築き、子どもを真ん中に据えてともに育ちについて考え合える関係を築いていく。 ③幼小連携については時間的な制約もあり、課題解決できないまま残してしまった。まずは、同じ公立の保育園との連携を充実できるよう、園児の交流のほか、職員間の交流や合同研修などをさらに充実させるとともに、小学校と連携していきたい。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・保護者のニーズのひとつに保育時間の延長があげられるが、登園時間を早めることで一斉活動の時間の確保がしやすくなるなどの園児にとってのメリットが見込まれ、前向きに検討したい。 ・臨時職員の交代は、園児への影響が大きく、保護者の信頼を損なうことになるため、現状の臨時職員の職務内容等を再確認し、教育機関との連携により、経験豊かな臨時職員の確保に努める必要がある。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・ 今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)						
	☒ 見直し	(内容)	☐ 予算拡充	☐ 予算削減	☐ 事業拡大	☐ 事業縮小	☒ 手法見直し	☐ 休止・廃止
	・今後も地域や保護者から信頼される幼稚園を目指し、職員の資質向上と教育内容の充実を図るために、情報収集を積極的に行い、スキルアップのための研修には積極的に参加をしていく。また、園内研修や検討会を多く持つことで職員間の共通理解や連携を図っていく。							

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑪放課後児童クラブの充実	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章・第1節の④
基本方向	・放課後や夏・冬・春休み時に子どもが集まって、学習や遊びを通して自主性や社会性・想像力を養えるよう放課後児童クラブを推進します。 ・放課後児童クラブにおいて、障がいのあるなしに関わらず、ともに参加できるよう関係者の理解やボランティア活動の促進に努めます。				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	◎放課後児童クラブの運営【県補助事業】※補助額6,816,000円 ・保護者が就労等により放課後や昼間家庭において保育できない児童に対し、適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な育成を図ることを目的に、小学校の空き教室等を利用して、町が運営主体となり、放課後児童クラブを設置する。 ①対 象：町内小学校に就学している児童 ②名 称：三郷小学校放課後児童クラブ（定員70名） 三郷北小学校放課後児童クラブ（定員120名） ③開所時間：学校授業日 午後2時～午後7時 学校休業日 午前8時～午後7時 ④休 所 日：土、日曜日及び祝日（年末年始） ※7月・8月を除く、第2土曜日は事前申込制により開所。 ⑤育 成 料：毎月5,000円（ただし、要件を満たせば、申請により育成料の減免措置あり。）
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○入所人数		
	放課後児童クラブ名	入所人数（人）	うち特別支援（人）
	三郷小学校放課後児童クラブ	53	6
	三郷北小学校放課後児童クラブ	100	5
	※入所人数は年間平均		
	○製作		
	・モノを作る楽しさ、自分で工夫し創造する楽しさを体感させるため、下記の製作を行った。また作品については、保護者等へのプレゼントにすることにより、日ごろの感謝の気持ちを表し、家族の絆を再確認できる機会となった。		
	①正月製作：祝い箸		
	○伝承遊び		
	・日本に古くから伝わる遊びを通じて、日本の文化を再認識し、また友だちと集団で遊ぶ楽しさを実感させるため、冬期に下記の伝承遊びを実施した。		
	※こま、なわとび、けん玉		
	○指導員研修		
	・指導員の資質の向上を図るため、県の児童福祉施設等職員研修に参加した。		
	・内容 ①講演：発達障害のある子どもたちへの支援		
	②遊びの広場への参加（遊びに関する知識を深め、子どもたちに遊びの奥深さを知ってもらう。）		
	○育成料の減免		
	・低所得世帯を対象に、毎月の育成料の減免を行った。		
	※減免者数：20人		
	○特別な支援を要する児童の受け入れ及びボランティアの活用		
	・放課後児童クラブでは、特別な支援を要する児童についても受け入れている。		
	・夏休み中、広報で募集した大学生のボランティア指導員（7人）を受け入れた。		

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。						
	- 入所希望が増えたことにより、三郷小学校放課後児童クラブを70人から100人に、三郷北小学校放課後児童クラブを120人から140人に定員を引き上げ、できるだけ入所希望に応えるようにした。 - 勢野北地区の人口増に伴い、三郷北小学校放課後児童クラブ施設を新設することで、快適な保育環境となった。 - 日々の通常保育だけでなく、製作や伝承遊びなどを盛り込み、保育内容の充実を図った。 - 平成23年度から導入した点数制による入所要件により、保育を真に必要としている児童から順に入所していただくことができた。 - 三郷北小学校放課後児童クラブ室の新設に伴い常勤の指導員2名増員し、前年度からの課題である待機児童を解消することができた。						
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)	
	①放課後児童クラブ運営	入所人数 ※決算額は運営費	人	116	153	H25	20,588,411
						H26	52,662,998
	②育成料の減免	減免者数	人	25	20	H25	-
						H26	-
						H25	
						H26	
						H25	
						H26	
						H25	
						H26	
	【継続的な課題】						
①放課後児童クラブの下校時の安全確保が十分であるかどうかの検討を加える必要がある。							
②対象児童を、小学5年・6年生にも拡大する必要があるかを検討した上で、必要であれば施設の充実を図るようにする。							
③事業の課題	【新たな課題】						
	①将来の児童数を鑑みながら、既設や増設済の施設を、未来の空教室にしないように調整をしつつ、増設を検討すること。						

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①他事業であるが、下校時危険箇所のある場所を再検討した。 ②小学生の保護者にアンケートを実施し、対象児童を小学5.6年生迄に拡大する必要があるかの検討材料にした。国の法改正や全国的な事例も勘案し、受け入れに向けて条例で対象を6年生までに拡大した。					
	①三郷小学校放課後児童クラブの教室を新たに増設する場合は、小学校の空き教室を使い、堅実な予算執行を心がける。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)				
	☒ 見直し	(内容)	☒ 予算拡充	☐ 予算削減	☐ 事業拡大	☐ 事業縮小
	・保護者の方に安心して児童を預けてもらえるように、指導員の質の向上に向けての指導と、新たに雇用を検討する時は、十分な知識と素養のある人を選ぶようにする。 ・小学校6年生までの受け入れについて、教室の問題等も含め検討していく。					

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑫生涯学習の推進	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章・第3節の①
基本方向	・時代に即応した町独自の学習の企画・開発に努め、より多様で充実した学習機会の提供を進めます。 ・知識・経験をもった人材が生涯学習に活躍できるよう、各種講座へのボランティア派遣制の構築を図ります。 ・各種団体、学校、企業などの協力を得ながら、住民ニーズに合った学習講座の開催と様々な情報提供システムの構築を図ります。				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	○学習基盤の整備 ・地域住民が主体的な活動により、心身ともに健康で豊かな人生をおくることができるよう、多様な分野における学習活動の場を提供する。 ○地域住民等の人材の活用 ・事業実施に伴い活動を担う指導者やボランティアの育成を図り、地域住民等の人材を活用するとともに、その団体やグループに支援を行う。 ○各種学級事業 ・自主的な学習を支援するため、学習に必要な講師等を招き住民ニーズに応じた各種学級を開講する。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果

○学習基盤の整備
社会情勢や住民ニーズの情報を取り入れ、時代に沿った学習内容とする。

○各種学級の運営状況

学 級 名	目 的	事 業 内 容	平成25年度		平成26年度	
			学級生数	開催回数	学級生数	開催回数
家庭教育学級	家庭教育の重要性や役割を認識し、子育てやそのあり方について学びつつ、保護者同士のネットワーク機能を充実させるとともに、自らを振り返り様々なことを学習する場を提供することで、安定した明るい家庭づくりを図る。	・健康学習（骨盤体操・フラダンス等） ・スマホ・ケイタイ講座 ・教養講座（マナー・英会話等） ・子育てサロン（相談会） ・創作講座（しめ縄等）ほか	22人	10回	36人	12回
長寿学級	熟年者として、時代の流れに対応できる生き方・暮らし方を求めて自主的・意欲的な学習活動を通じて、生き甲斐を感じ得る。	・軽スポーツ（囲碁・ボール等） ・健康学習（介護予防体操等） ・環境施設見学ほか	114人	10回	106人	11回
くれない学級	教養を高め自主的・意欲的な学習活動を行い女性としての生き甲斐を高める。	・調理学習 ・歩く会（大和路沿線巡り） ・健康学習（介護予防体操） ・工場見学ほか	37人	10回	43人	11回
歴史教室	身近な歴史とふれあい個々の知識を深め心豊かにする。	・現地学習4回（石清水八幡宮等） ・講義6回（摂関政治と天皇等）ほか	77人	12回	72人	12回
みさと万葉学習会	万葉集の学習を通じ個々の知識を深めるとともに町の歴史と文化についても関心を持ち心豊かにする。	・現地学習3回（岡山県牛窓等） ・講義7回（高橋虫麻呂等）ほか	54人	14回	66人	14回

※5学級合同学習会として、7月12日（土）に「人権学習会」、11月22日（土）に「教育講演会」、2月23日（月）に「健康福祉学習会」を開催した。

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。					
	○各種学習の運営 ・生涯学習学級として、「家庭教育学級」、「長寿学級」、「くれない学級」、「歴史教室」、「みさと万葉学習会」の5学級を開催した。【成果指標①】 ・各学級の運営は各運営委員会により事業内容等を検討するなど、学級の自主的な運営が実施できた。 ・学習内容について、希望の講義や課題の把握のため、学級受講者にアンケートを実施した。 ○地域住民等の人材の活用 ・学級の開催における講師には、文化教室や各施設のボランティア団体等を活用し、地域の活性化が図られるとともに、町外の講師も招き、内容の充実に努めた。また、奈良県登録の講師を招き、他機関の人材も活用した。					
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①生涯学習学級	登録者数	人	304人	323人	H25 736,369 H26 716,141
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
③事業の課題	【継続的な課題】 ①開催している生涯学習の学級が、ここ数年同じ内容で推移している。受講者には人気があり継続しているが、社会情勢や住民ニーズを的確に捉えながら新しい学級内容を検討することが必要である。 ②各学級の学級生の高齢化や、担当する地区の広さから、地区役員の方々にこれまでと同様の業務を求めることが難しくなっている。					
	【新たな課題】 ・学習内容に関して、アンケート調査を実施しているが、マンネリ化が懸念される。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①学級や講座の開催については、アンケート等で学級生の希望等の把握に努めており、その結果も勘案し現行の体制（5学級制、自主運営、学習内容）で生涯学習を行っていく。ただし、それぞれの学級で毎年同じ内容の学習を繰り返すのではなく、新しいテーマや分野に積極的に取り組んでいく必要がある。 ②地区役員に対して、自主運営からはずれない程度で負担軽減を検討していく。	
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・学習内容のマンネリ化解消の為、学級生のニーズはもとより、他の自治体と情報交換も行い工夫・検討する。	

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☒ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☐ 見直し	(内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止・廃止
・住民が主体的に学習ができる学級運営を行う。 ・地域の社会資源を掘り起こし活用する。 ・社会の変化に合った学習内容とする。 ・学級で学んだことを生かしていただけるよう、学級生に対しボランティアバンクへの登録を斡旋する。		

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑬青少年の健全育成	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章・第2節の⑧
基本方向	・児童・生徒の健全育成のため、問題行動の解決に向けた地域ぐるみの取り組みを推進するとともに、関係機関と連携し、早期発見・早期指導の体制充実を図ります。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	○青少年育成三郷町民会議 ・青少年問題の重要性に鑑み、関係機関および団体が緊密な協力により、広く町民の総意を結集し次代を担う青少年の育成を図る。 ①親子のつどい ・活力と創造性に満ちた青少年を育成するとともに、親子・地域社会等のふれあいを築くことを目的とする。 ②教育講演会 ・次代を担う青少年の育成を図ることを目的として講演会を開催する。 ③問題行動等防止 ・有害図書類等に対する立入調査を実施（年1回）する。 ・巡回指導の実施及び関係団体の協力のもと、夏休み・春休みに町内の巡視を行う。 ○成人式 ・新成人の門出を祝福するため「成人式」を開催する。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○青少年育成三郷町民会議 ①指導推進部会 幼保小中高の様子や長期休業期間の生活の様子などについて意見交換を行い、情報を共有するとともに各学校園に持ち帰り児童生徒等の指導にあたる。また、不登校については、平成25年度に地区別懇談会でも取り上げられたことにより、学校だけの問題ではなく、町全体の問題として、地域のみなさんの理解が深められたことや問題行動等による生徒指導の報告があり、学校、保護者、地域、関係機関等がより一層連携を図る必要があることが確認された。 ②調査研究部会 本年度は、学校での迷惑行為と異装（茶髪・ピアス・服装）の乱れの改善のため、幼保園・小中学校・町・地教委・地域関係機関が連携して問題生徒と保護者へ「規範意識」の重要性について取組んだ結果、改善されてきてはいるが一部改善されていない園児・生徒がいることから、その取組みをより充実させていくことが重要であるため、次の講演会を実施した。関係機関および地域住民との協力により、更なる「規範意識」を高めることを目的とした講演を受講した。 期日 平成27年3月16日（月） 場所 図書館 視聴覚室 講師 内田 玲子 家庭教育カウンセラー 演題 「見つめなおそう家庭の力～さまざまな問題を起こす前に必ず子どもは「サイン」を送っています」 参加人数 58人 ③啓発促進部会 町民会議の各種事業について、関係機関等に事業開催の案内やポスターの作成及び掲示を行った。 ④地域活動部会 親子のつどいについて、開催内容、役割分担等を確認し、関係機関と協議・連携を行い事業を実施した。 ⑤関係機関との連携 「三郷町要保護児童対策地域協議会」や「定例人推・児童館連絡会」と連携を図り、幼児・児童生徒がおかれている現状を認識し、青少年の育成を図った。 ○教育講演会 期日 平成26年11月22日（土） 場所 文化ホール 講師 原田 真二 氏 演題 「優しさを育む心の教育」 参加人数 198人 ○親子のつどい ・本年度は、昼食後雨が降り行程を変更したが、参加家族みんなで野外炊飯・味覚狩り・ゲーム等を楽しみながら親と子、子ども同士・親同士のつながりを図ることができた。 期日 平成26年11月2日（日） 場所 農業公園信貴山のどか村 参加人数 小学生 45人・5歳児 11人・5歳児未満 9人・保護者 57人 合計 122人 ○問題行動等防止 ・平郡町と三郷町合同による有害図書等の巡視を平成26年11月17日（月）に実施した。 ・巡回補導 生駒郡4町合同で、平成26年10月25日（土）に実施した。 ・巡視活動 関係機関の協力のもと、学校の長期休業期間に13回、町内を公用車において巡視した。 （巡視時間 20時～22時） 夏休み期間 7月22日（火）・24日（木）・29日（火）・31日（木）、8月5日（火）・7日（木）・19日（火）・21日（木）・26日（火） 春休み期間 3月25日（水）・26（木）・27日（金）・30日（月） ○成人式 ・三郷町文化センター及び三郷町スポーツセンターにおいて実施した。 期日 平成27年1月11日（日） 参加人数 173人(参加率69.8%)
---------	---

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	○青少年育成三郷町民会議 ・児童・生徒の問題行動について定例会推連絡会議や、突発的な事案に対し町行政と教員・家庭・地域とで緊急な協議を行うなど、青少年の真の問題点の把握、分析を行い、各関係機関と密接な連携を図り、各部会の活動も予定どおり行うことができ、青少年の育成が図られた。 ○親子のつどい ・平成26年11月2日（日）に実施し、122人の参加があった。【成果指標①】 ○教育講演会 ・PTAの参加率が極めて悪い。PTAの事業の一環であることの再確認と、より一層の啓発及び集客率の良い企画が必要である。参加者198名。 ○問題行動等防止巡視 ・13回の巡視活動を行い、問題行動等は見受けられなかったが、この巡視活動は、青少年の問題行動等の未然防止策として効果ある活動と判断している。【成果指標③】また、今後も引き続き、三郷町要保護児童対策地域協議会や地域・学校等との連携を図り、問題行動等の指導にあたる。 ○成人式 ・対象者248人に対し参加者が173人、出席率としては前年度73.1%であったが、本年度は69.8%となり3.3ポイント下がったものの、今後も七割程度の参加は維持していきたい。【成果指標④】 ※青少年の育成については、単純に分析することは困難であるが、年々、家庭・学校・地域・行政の協働と連携の強化は図られており、問題行動等の早期発見、的確な助言及び指導を通じて問題行動等の未然防止及び問題解決に努めています。
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①親子のつどい	参加人数	人	140人	122人	H25 598, 579
	②教育講演会	参加人数	人	中止	198人	H26 865, 242
	③非行防止巡視	巡視回数	回	13回	13回	
	④成人式	参加率	%	73.1%	69.8%	H25 235, 148
						H26 241, 515

③事業の課題	【継続的な課題】 ①問題行動等防止巡視 ・巡視において青少年に対して指導は行うが、補導等の権限がなく警察との連携が必要となっている。
	【新たな課題】 ①事業全般の参加人数が減少している。 ②中学生の問題行動が多岐にわたり発生している。

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①警察との連携として、所轄の警察署に引き続き巡視時に同行を依頼するとともに、問題行動等防止巡視において青少年に対して指導を行うとともに、関係機関に青少年への有害物の販売等自粛を要請した。 また、同町民会議委員でもある少年補導員や青少年指導員へ、より一層の協力を求めた結果、13回の問題行動等巡視活動に双方のどちらか一方の同行が得られた。
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①各事業の関係団体と協議を行い啓発を強化する。 ②問題行動について、家庭・地域・関係機関と情報を共有し、対応する。

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・ 今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☒ 見直し	(内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☒ 手法見直し ☐ 休止・廃止
	・青少年の育成は地域の協力が必要不可欠であり、今後も関係機関等が連携を密に図りながら取り組みを行う。	

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑭人権教育・啓発の推進	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第4章・第1節の①②
基本方向	・住民の自発的な啓発活動を促進するため、情報や学習機会の提供などの支援を強化するとともに、学校教育や社会教育を通じて人権教育の内容の充実を図ります。 ・行政、関係機関・団体等の連携によって、住民の立場に立った、利用しやすい人権相談窓口と体制の充実を図ります。				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	○識字学級 ・教育を受ける権利を保障されなかった方に、文字などを学習する機会を提供する。 ○人権教育地区別懇談会 ・暮らしの中にある疑問や不合理などを話し合い、人権問題を身近な問題としてとらえ人権確立を図る。 ○人権問題学習セミナー ・人権教育の推進を図るための人権問題学習セミナーを実施する。 ○人権に関わる相談や対応 ・人権に関わる相談や人権侵害事象に対応するため、関係機関と連携を図りながら問題解決を行う。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○識字学級 ・毎週月・木曜日の午後5時30分より学級を実施した。学級生は学習意欲が高く、熱心に学習した。 登録者数：1人 ※学習内容は、文字の練習、数字の計算等を実施した。 ○人権教育地区別懇談会 ・本年度の地区懇は、本町幼・保園・小・中学校の「異装・茶髪」等の実態をうけて、「子どもの人権について～子どもたちの心を育てる地域づくり～」をテーマとして、15会場で開催した。 地区懇では、参加者に「大人の規範意識を高めることが子どもの規範意識を高め、子どもの人権を守ることにつながる」という内容で学校・教育委員会・町行政とともに地域も一緒になって自分にできること、地域でできることについて考えていただいた。 延べ参加人数：516人 ○人権問題学習セミナー ・5回のセミナーを行った。 3回の講演は、1回目、奈良県人権教育推進協議会事務局次長 飯田 美和さんを迎え「音にのせて伝えたいこと～家族の絆、地域の絆、紡いできた人生を生かすことを～」、2回目、深野〇〇会代表 北森 義卿さんより「少子高齢化が進む中、山間地域の地域づくり事例～新しい田舎の時代をめざして活動する『深野〇〇会』～」、3回目、前奈良学園幼稚園園長 荒井 恵子さんから「愛されて生きる喜びの原体験を」以上3回の講演を取り組んだ。2回の現地学習は、「道の駅宇陀路大宇陀・大宇陀人権スポット」、「松浦武四郎記念館、三重県人権センター」で開催した。 延べ参加人数：289人 ○人権に関わる相談や対応 ・人権問題啓発活動推進本部、人権教育推進協議会などの関係機関と連携を図り、「第26回人権を確かめあう日 県内一斉集会」、「差別をなくす町民集会」などの人権に関わる事業を共に行った。 ・随時人権相談に応じるとともに、三郷町要保護児童対策地域協議会などとも連携を図り、問題解決にあたった。
---------	---

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○識字学級 ・年間通して(夏・冬・春休みを設定)週2回実施しているが、学級生の都合により休校の日もあって年間で69回の開催となった。学級生は学習する喜びを感じながら、取り組んでいる。【成果指標①】 ○人権教育地区別懇談会 ・参加者は前年度より若干減少したが、今年度も本町における身近な人権問題をテーマに掲げ、住民の方々に学習の場を提供することができた。【成果指標②】 ○人権問題学習セミナー ・今年も「いのち」「不登校」「絆」「平和」「まちづくり」といった、様々な人権問題をテーマとして取り上げた。参加者は、前年度に比べ減少した。【成果指標③】 ○人権に関する相談や対応 ・差別落書き1件が発生し、関係機関と連携を図りながら対応した。
-------------	--

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①識字学級	実施回数	回	69回	69回	H25 12,090 H26 0
	②人権教育地区別懇談会	参加者数	人	585人	516人	H25 407,535 H26 405,220
	③人権問題学習セミナー	参加者数	人	321人	289人	H25 239,300 H26 290,220
						H25 H26
						H25 H26

③事業の課題	【継続的な課題】 ①識字学級については、学級生が年々減少している状況とともに、学級生が高齢で健康上の理由などにより活動が続けられなく可能性がある。 ②人権教育地区別懇談会については、ここ数年一定の参加者はあるが、一部の地域を除き大部分の地域で参加者の固定化、高齢化といった課題を抱えている。 ③人権問題学習セミナーについては、ここ数年参加者は平均で300名程度であるが、今後も取り上げるテーマ・内容等の工夫が必要である。 ④人権教育地区別懇談会について、15の自治連合会等単位で実施しているが、それぞれの地域の住民構成の違いが顕著になってきており、統一テーマで実施することに多少の無理が生じてきている。 【新たな課題】 ①事業全般の参加人数が減少している。
--------	--

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①識字学級については、学級生の諸事情を考慮しながら学級運営をしていく。 ②人権教育地区別懇談会については、参加者のニーズを十分把握するとともに、実施に当たっては自治会長さんと綿密に連携を図りながら協力して進めていく。 ③人権問題学習セミナーについては、その時々々の社会情勢や本町の実態を勘案したテーマの選定に心がけ、学習形態も講演一辺倒にならないよう工夫する。 ④人権教育地区別懇談会について、開催時に実施している参加者のアンケートや総括会議等での意見を今後も大切にしながら、計画立案していく。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①地区別懇談会等の参加者を増やすため、テーマに沿ったターゲットへの啓発を強化する。
------------	---

6 今後の計画・方向性(PPLAN)

事業の計画・今後の方向性	☒ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☐ 見直し	(内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止・廃止 ・人権は誰もが持っている普遍的な権利であり、人権が尊重される地域社会を目指すため、情報や学習機会の提供を図るとともに、今後も人権相談等の体制を充実する。

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑮文化センターの充実	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章・第3節の②
基本方向	・講座修了のグループが、個々の活動を自主的に展開できるよう、コーディネート体制の確保を図ります。 ・施設の有効利用を図るため、使用料の設定など、運営の改善に努めます。 ・施設の機能向上を図るため、利用者のニーズにあった改修を計画的に進めます。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	○グループ活動の支援 ・自主的な文化活動を行うグループなどに対し、有意義な活動ができるよう支援を行う。 ○各種講座の開設 ・文化センターにおいて、町民の芸術文化に対する関心を高めてもらうため、文化講座、健康講座等を実施する。 ○指定管理者の指定 ・民間の経営や事業展開のノウハウを活用し、より充実した施設管理を行うため、公益財団法人三郷町文化振興財団を指定管理者に指定する。それにより当該財団の自主事業との相乗効果が期待できる。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果

○文化講座・健康講座

[単位/人]

	講座名	内 容	延受講者数	
			平成25年度	平成26年度
1	パッチワーク&お針物	基礎的な技法を学び日常小物から個別に実習をします。	162	219
2	声楽教室	発声練習と親しみやすい日本歌曲を歌います。	366	167
3	ピアノ	初心者の方歓迎。基礎からメロディーまで学びます。	148	62
4	着付け入門	着物の自装や帯結びなどマスターできます。	105	95
5	茶道入門	楽しく礼儀作法を学び、お茶の心に親しみます。	53	51
6	はじめての英会話	基礎から簡単な日常会話まで楽しくレッスンします。	125	119
7	おしゃれ*パーソナルカラー	自分に合う色を知り、楽しい生活を彩ります。	133	54
8	フラダンス	自然賛歌を全身で表現、心と体を癒します。	83	77
9	社交ダンス	社交ダンスのステップやフォームを習得して、姿勢を整え、体を軽やかにします。	82	68
10	楽しい寄せ植え	初心者の方の園芸のコツと、四季に応じた寄せ植えを実習します。	88	70
11	男の料理教室	料理、始めてみませんか？作る楽しさ、味わいます。	62	118
12	ふわふわパンと簡単デザート	ミキサーと手ごねで美味しいパンと簡単デザートの作り方を学びます。	94	68
13	和菓子・ケーキ	基礎と理論を学びながら、四季折々のお菓子作りを楽しみます。	96	63
14	囲碁入門	囲碁の打ち方、ルールおよび、歴史や文芸も学びます	69	62
15	はじめてのパソコン	パソコンの仕組みや基本操作、インターネット検索を学びます。	149	94
16	やさしい木目込人形	初心者でもやさしくできる木目込人形を作ります。		44
17	楽しいハーモニカ	幼いころに習ったハーモニカで懐かしいメロディを奏でる。		76
18	入門太極拳	「入門太極拳」の8つの動作を学びます。	127	145
19	ヨーガ	全身の歪みを調整し、呼吸法で免疫力をアップします。	188	151
20	ゆる体操初級	固まった身体をゆるりとほぐして血行を促します。	156	130
21	体験講座B	体操系の講座を体験します。		73
22	三郷町ひまわりセミナー	奈良学園大学による公開講座。	96	50
	陶芸教室	食器、花器等の成型及び簡単な加工・釉掛けします。	42	
	キッズダンス	バレエ・ジャズダンス・柔軟で表現力を磨きます。	107	
	ワードの基礎	ワードの基本機能の学習から文書作成、案内状・チラシの制作まで学びます。	121	
	ウェーブストレッチ/ピラティス入門	体内のコアな筋肉を鍛えて、全身を整えます。	154	
	こどもフィットネス	手遊び・道具遊びで、楽しくリズム感を育てます。	133	
合 計			2,939	2,056

○文化センター利用者数

[単位/人]

	平成25年度	平成26年度
・文化ホール	10,727	7,711
・展示ホール・ロビー	6,385	4,995
・会議室・研修室・音楽室	24,858	27,319
・創作室・和室・茶室・視聴覚室	16,055	18,885
・その他（リハーサル室ほか）	11,471	11,724
合 計	69,496	70,634

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。					
	○文化講座・健康講座 ・平成26年度は、応募人数の不足による未開講が多かったこともあり、開講した講座数は平成25年度から2講座減った。延受講者数は平成25年度の2,939名から2,056名と大幅な減少になった。当講座には、町内の文化・健康活動団体に対する会員の増強の目的もあることから、単純に受講者数で判断することは難しいが、総合型スポーツクラブ「元気☆ひまわりクラブ三郷」が開講し、類似した講座を行っていることの影響も考えられる。今後、アンケート結果や受講者数を継続してチェックする必要がある。【成果指標①】 ○文化センター利用状況 ・平成25年度に利用者数の増加した文化ホール・展示ホール・ロビーの利用者数が減少したが、その他の施設の利用者が増加したため総数としては増加した。前年度から利用者が減少した施設は、元々利用率の低い施設なので有効利用ができる運用システムを考える必要がある。【成果指標②】					
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①文化教室 (決算額は文化教室講師謝礼及び委託料)	参加者数	人	2,939人	2,056人	H25 2,477,500 H26 1,789,000
	②文化センター (決算額は指定管理委託料)	利用者数	人	69,496人	70,634人	H25 37,331,401 H26 37,281,969
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
③事業の課題	【継続的な課題】 ①施設の維持管理 ・経年劣化による不具合や故障が頻発しており、計画的に改修する必要がある。 ②施設の電気代の上昇 ・電気料金の値上げや消費増税の影響で、文化センターの電気代が上昇している。文化ホールや展示ホール、ロビーは照明や音響機器の関係で特に電気使用量が大きいので、利用が増えれば増える程、大幅な電気代の上昇に繋がる。					
	【新たな課題】 ①文化教室の受講生が減少している。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①施設の修繕については、緊急度と財政状況を勘案しながら計画的に改修する。 ②夏季、冬季における空調機器の使用について、施設利用者に対し規定の温度設定等を周知徹底する。また、照明や音響機器を取り替える際に、より電気使用量の少ない省電力型機器へ取り替える。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①文化教室については、現状講座の項目や内容を精査する。また、継続受講の参加者が大半を占め、高齢化が進み受講生が減少していることから、新たな受講生を獲得するようニーズの調査とともに啓発を強化する。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☒ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)				
	☐ 見直し	(内容)	☐ 予算拡充	☐ 予算削減	☐ 事業拡大	☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止・廃止
・指定管理者の指定により一定の成果があることから、今後も教育委員会事業と文化振興財団事業の連携により住民の自主的な文化活動の支援体制を強化する。 ・教室で学んだことを生かしていただけるよう、受講生に対しボランティアバンクへの登録を斡旋する。						

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑯文化活動への支援	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章・第3節の③
基本方向	- 文化活動団体について、地域の文化活動を支える方たちを掘り起こし、それぞれに魅力を持たせ、会員の輪を広げていきます。 - 今後も、文化活動団体育成のための支援に努めます。				

2 事業概要・目的(PPLAN)

事業概要・目的	○いろいろな分野から生涯学習の指導者等を掘り起こし、文化活動はもとより身近な生活課題や地域づくり等につながる学習活動の支援ができるシステムを構築する。 ○三郷町各種団体等運営補助金交付要綱に基づき、各種団体の活動及び運営に要する経費を予算の範囲内で補助金として交付し、文化の振興及び向上を図る。 ①三郷町文化協会 ②三郷町地域婦人団体連絡協議会 ③三郷町子ども会連合会 ④三郷町民文化祭実行委員会 ⑤三郷町芸術祭美術展実行委員会
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○生涯学習の指導者等の活用支援 - 生涯学習の学級や子ども人権学習支援事業の講師の選定において、地域の団体・個人と連携を図ることにより指導者の掘り起こし及び講師としての協力を得ることができた。 ①家庭教育学級 2回（英会話、コミュニケーションマナー講習） ②長寿学級 2回（軽スポーツ、音楽鑑賞） ③くれない学級 3回（健康体操、調理学習、教養講座） ④三郷町子ども人権学習支援事業 5回（軽スポーツ2回、ゲートボール、調理体験、お茶） ○団体への助成 ①三郷町文化協会（補助金額：320,000円） - 目的：町の文化活動の中核団体として、文化の振興と向上、会員相互の親睦を図り、かつ個人の教養を高める。 - 主な事業：総会、文化協会まつり、人権学習会を開催し、随時役員会を開催。第46回三郷町民文化祭の運営に協力するとともに、研修会等を開催し会員の知識の向上を図ることができた。 ②三郷町地域婦人団体連絡協議会（補助金額：200,000円） - 目的：会員相互の親睦を図り、教養を高め家庭生活の樹立と平和で民主的な社会の建設に努めるとともに、女性の地位向上を目指す活動の支援・協力を行う。 - 主な事業：総会、環境学習等の学習会、町の各事業への参加、また、老人福祉施設へのボランティアを行った。 ③三郷町子ども会連合会（補助金額：228,659円） - 目的：子どもたちの健やかな育成を図るとともに、三郷町子ども会連合会活動を通して地域の連帯力と子どもたち一人ひとりの社会生活を営む能力を高める活動の支援・協力を行う。 - 主な事業：総会、子ども会の日(8月8日(金))にプール遊び等を実施。他に、リーダー研修会、まぜこじりの会、どろんこあそびの会等を開催した。 ④三郷町民文化祭実行委員会（補助金額：652,899円） - 目的：三郷町民文化祭の開催にかかる企画、準備、運営等を協議する。 - 主な事業：三郷町民の積極的な参加を得て、様々な文化活動を広く交流することにより、地域文化の振興を図ることを目的に「第46回三郷町民文化祭」を10月25日（土）、26日（日）に開催し、展示・発表を合わせて69団体の参加があった。また、展示会場では2日間で2,631名の来場者があった。 ⑤三郷町芸術祭美術展実行委員会（補助金額：367,243円） - 目的：三郷町芸術祭美術展の開催にかかる企画、準備、運営等を協議する。 - 主な事業：町民と近在住民の芸術に対する関心を高めるとともに、交流振興を図ることを目的に「第27回三郷町芸術祭美術展」を9月11日(木)～9月14日(日)に開催し、198点の作品が出展され、1,055人の来場者があった。
---------	---

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○生涯学習の指導者等の活用支援 ・生涯学習を行う機会において、地域の指導者の協力を得て実施することで、より活発な活動ができた。 ○団体への助成 ・文化の振興、芸術の向上に寄与するため、各種団体に補助金を交付し所期の目的を達成できた。 【成果指標①】 ○三郷町民文化祭実行委員会 ・平成26年10月25日（土）・26日（日）に三郷町文化祭を実施し、展示・発表を合わせて69団体の参加があり、展示の部で2,631名の入場者があったことにより、三郷町民の積極的な参加を促す目的は達成できた。 【成果指標②】 ○三郷町芸術祭美術展実行委員会 ・平成26年9月11日（木）～14日（日）に第27回三郷町芸術祭美術展を開催し、198点の作品の出展のもと、町内外の文化の振興、芸術の向上が図られた。【成果指標③】 ・参加者にアンケートを実施したところ、多くの方が現行の開催方法で良いとの意見であった。

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①各団体への補助金 (文化協会・婦人会・子ども会)	補助金額	円	719,293円	748,659円	H25 719,293 H26 748,659
		参加団体数	団体	中止	69団体	H25 282,931
	②三郷町民文化祭実行委員会	来場者数	人	中止	2,631人	H26 652,899
		来場者数	人	859人	1,055人	H25 349,849 H26 367,243
	③三郷町芸術祭美術展実行委員会	来場者数	人			H25 H26

③事業の課題	【継続的な課題】 ①生涯学習の事業実施に伴い、地域に埋もれている指導者等の人材を掘り起こすシステムづくりが必要である。 ②三郷町地域婦人団体連絡協議会については、会員数を増加し、組織力を強化する必要がある。 ③三郷町には文化活動推進を目的とする補助団体として、公益財団法人三郷町文化振興財団・三郷町文化協会・三郷町芸術祭美術展実行委員会・三郷町民文化祭実行委員会とあり、それぞれが独自で活動が続けていた経緯がある。しかし、現状ではどの団体においても会員や来客数を確保することに苦慮しており、今後それぞれの活動を連携していく必要がある。 ④三郷町民文化祭の運営にあたり、人手が不足している。
	【新たな課題】 ①文化祭実行委員会・芸術祭美術展実行委員会共に会員の高齢化が進んでおり、イベントの開催に伴いその準備等が困難になっている。

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①文化センターで行っている文化教室などと情報交換を行い、地域の人材を把握できる体制が出来ている。 ②地域婦人団体連絡協議会の会員募集を引き続き、広報等で周知するとともに、暮らしの場に元気を生み出す（住民が相互に支えあい分かち合う精神を大切にする）活動など、会員の広がりにつながる活動を工夫する必要がある。 ③各団体のイベントを共同で行う他、他団体の教室や研修会に積極的に参加をする。 ④関係機関に人的な協力を依頼する。
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①イベント開催に伴う準備については、担当課等の職員でフォローし、会員の若返りを図るよう働きかける。

6 今後の計画・方向性(PPLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☒ 見直し	(内容) ☐ 予算拡充 ☒ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☒ 手法見直し ☐ 休止・廃止 ・地域に埋もれている貴重な人材を掘り起こし、様々な学習活動の支援をいただくとともに、指導者の育成及び支援を合わせて行う。 ・現在活動をされている団体・個人に対しても引き続き支援を行う。

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑰図書館の充実	担当課名	図書館 (生涯学習課)	総合計画位置づけ	第1章・第3節の④
基本方向	・住民の生涯学習に対するニーズに応えるため、蔵書・資料の充実を図り、資料収集を継続します。 ・誰もが気軽に利用できる住民の学習、ふれあいと憩いの場とするため、各種館内サービスや行事の充実に努めます。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	○資料・情報の提供 図書、雑誌、新聞をはじめCD、DVDなどの音響・映像資料を含む各種の図書館資料を幅広く収集して子どもから高齢者まで様々な方々の求める資料を的確にできるだけ早く提供する。また、館内のインターネットアクセス端末によりネット情報の提供を行う。 ○子どもの読書の推進 絵本や児童図書の利用の促進（季節やテーマに沿った絵本の面展示く表紙を見せる＞の実施、小中学生向け調べもの学習資料の充実）とともに、乳幼児向け（ブックスタート、ゆりかごおはなし会）、児童生徒向け（おはなし会、土曜の午後のおはなし会、夏・冬のつどい、本の森探検隊）などの年齢層に合わせた各種の行事を継続して行うことにより、子どもの読書の推進を図る。 ○生涯学習事業の推進 映画上映会（毎週土曜日）、大正琴やギターの演奏会のほか、講演会等を実施して、人々が集い、交流する生涯学習の場を提供する。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

	○平成26年度統計		
		平成25年度	平成26年度
	蔵書冊数	233,741冊	239,177冊
	入館者数	190,890人	190,750人
	貸出人数	84,707人	82,879人
	貸出冊数	254,885冊	251,674冊
	ネット延長人数	4,766人	5,175人
	ネット予約人数	3,915人	4,313人
	HPアクセス数	58,332回	61,258回
	○図書館行事		
	行事名	概要	参加人数 平成25年度平成26年度
	ブックスタート	7ヶ月検診にあわせて赤ちゃんと保護者に絵本の世界に誘う取組みを実施した	195人102人
	ゆりかごおはなし会	0～2歳の幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせ・手遊びなどを行った	148人144人
	おはなし会	毎週日曜日に小さい子ども向け、大きい子ども向けに分けて絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを行った	696人791人
	土曜の午後のおはなし会	土曜日にお話しボランティアによって絵本の読み聞かせやストーリーテリングを行った	98人99人
	夏のつどい	ペープサートや人形劇など子ども向けの行事を行なった	69人62人
	映画上映会	名作映画の上映会を実施した	2,677人2,656人
	本の森探検隊	テーマを設定した本を探して楽しみつつ本に親しむイベントを実施した	120人105人
	フロアーコンサート	図書館の開架室でギターマンドリンコンサートを行った	184人237人
	大人のためのストーリーテリング	大人向けにストーリーテリングの面白さを伝えるために実施した	30人41人
	四国八十八か所講演会	四国霊場を徒歩で回られた方からの体験談をお聞きした	25人55人
	大正琴コンサート	大正琴の素敵な音色で楽しい時間を過ごした	172人182人
	ギター演奏会	ギターのグループによる演奏会を実施した	80人95人
	冬のつどい	ペープサートや人形劇など子ども向けの行事を行った	61人81人
	図書館講演会「イースター島のモアイと自然環境」	モアイ建造に伴う環境破壊についての講演会	30人—
	図書館講演会「クラシックギター・コンサート」	金谷幸三氏によるギター・コンサートを行った	—71人
	ブックリサイクル	除籍済の図書資料を住民に提供した	969人958人
	ぬいぐるみのおとしょかんおとまり会	預かったぬいぐるみが図書館で遊んでいる姿をアルバムにして渡した	15人14人
	写真展	町内在住の写真家による写真展を行った	—262人
	全国訪問キャラバン隊	キャラバン隊と共同で屋外での絵本の読み聞かせや冊子のプレゼントを行った	—30人
	○レファレンスサービス		
	資料の所蔵調査や文献の調査などカウンターや電話、文書で寄せられる質問に対して、図書館資料を使って回答する。さらに県立図書情報館に協力依頼して回答を行う場合もある。		
	○図書館のHPの充実を図り、インターネットにより蔵書の検索、予約、貸出期間の延長などを実施している。モバイル端末でも同様に検索、予約、延長が可能である。		
	○課題図書コーナーを設置して小中学生の作文や宿題等の学習に役立てている。		
	○役場の他の課と協力して非核平和の映画の上映及び関連図書の展示を行った。		

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○資料・情報の提供 約5,300冊の図書を購入して利用者に提供したが、貸出冊数は前年に比べ1.3%減、入館者は0.1%減となった。【成果指標①】一方、ネットでの予約件数が昨年に引き続き増加した。 ○子どもの読書推進 乳幼児向け、児童生徒向けに年齢層にあわせて各種の事業を年間通じて実施した。参加者総数は前年度より増加したが「ブックスタート」が前年度に比べ参加者が半減した。これは会場を保健センターから図書館に変更したことによると考えられ、変更前に比べカード作成率や貸出数は増加した。【成果指標②】 ○生涯学習の推進 今年度は上映会の利用者が少し減少したが、全体的には増加した。特に地元住民による「写真展」のような展示会は近所の友人が多く、参加し入館者増に繋がった。今後は地元のサークルに施設の一部を開放し、図書館に関心のない方を呼び込むことにより入館者を増加を図る。【成果指標③】
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①資料情報の提供	貸出冊数	冊	254,885冊	251,674冊	H25 10,485,089 H26 10,526,377
	②子どもの読書推進	参加者数	人	1,402人	1,428人	H25 207,290 H26 203,364
	③生涯学習の推進	参加者数	人	4,167人	4,557人	H25 30,000 H26 20,000
						H25 H26

③事業の課題	【継続的な課題】 ①図書館を利用されていない方々に対して、いかに図書館を利用していただくかを検討する。 ②おはなしボランティアを増やすこと。 ③小中学校や保育所、幼稚園などとの連携を一層進める。
	【新たな課題】 ①多くのイベントを実施してもイベントの情報自体を住民に知られていないことがある。

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①インターネットやスマホの普及により個人で情報を入手できるようになり、総体的に図書館の利用者が減少した。そこでより新しい情報が掲載された「雑誌」を大量導入し情報提供の場としての図書館をアピールする。またCDやDVD等の音響・映像資料も充実させ、娯楽施設としての図書館の宣伝を行い、普段図書に関心のない人たちを呼び寄せる。 ②イベントの充実のために「おはなし会」のボランティアの育成に加え、英会話や手芸等のボランティアを募集し図書館で行ってもらうことによって来館者を増やす。 ③27年度より学校図書館と連携し「図書巡回サービス」（移動図書館）を実施する。最初は三郷北小学校2年生のみが対象となるが今後は対象学年を増やし、三郷小学校でも実施して全体の貸出・登録数を増やす予定。また、本年度より学校司書1名を配置し、町立図書館との情報交換や連携を密にしたことにより、各学校の図書室の環境が変わり学校図書室が利用しやすくなった。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①HPやフェイスブックでの宣伝は高齢者の方が気付かない場合があるので、今後は近隣の施設にポスターやチラシを設置してもらい、さまざまな世代への宣伝を行う。
------------	--

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☒ 見直し	(内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☒ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☒ 手法見直し ☐ 休止・廃止 ・ 町民への資料情報の提供という図書館の基本的業務を確実に実施しながら、様々な行事を通じて図書館の魅力をアピールして、さらに多くの方々が図書や情報に触れ、親しむ環境作りをさらに進める。 ・ 図書巡回サービスを通して子どもたちの図書のニーズを調査し、より魅力的な図書を用意することにより子どもたちの読書推進を支援して図書館の貸出増加に繋げる。

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑩文化財の保護と活用	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第2章・第4節の①②③
基本方向	・国・県と連携しながら文化財保護に努め、案内看板・説明看板の整備など環境の整備に努めます。 ・民間団体による調査活動を支援するとともに、住民団体と協力して歴史的資料の発掘及び保全・管理をするための調査を進めます。 ・文化財の保全・管理・展示を行う郷土資料室のあり方について検討します。 ・ボランティアの育成に努めながら、地域の歴史にふれる機会の充実を図ります。				

2 事業概要・目的(PLAN)

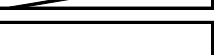
事業概要・目的	○文化財の保護 ・後世に継承すべき文化財の保護保存をしていくため、国・県等の関係機関と連携を図りながら町内の文化財の確認作業及び指定文化財等への保存助成、環境整備を行う。 ○文化財の啓発・活用 ・町内の文化財について、広く町民等に啓発できるよう企画立案する。 ・文化センター内に設置している「郷土資料室」の有意義な活用を図る。 ○地域の歴史学習の機会の提供等 ・生涯学習の一環として、地域の歴史を学ぶ教室を開催する。また、歴史・文化財に係る地域のグループ等がより充実した活動ができるよう協力・支援する。
---------	--

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○文化財の保護 ・現在、町内には国指定重要文化財3点、県指定文化財1点、町指定文化財13点、国登録文化財1点がある。それぞれの文化財の保存及び活用については、その所有者と連携を図り適切な対応を行った。 ・遍照院シダレザクラ（町指定）の樹木消毒の維持管理経費の一部助成を行った。 ・（勢野）八幡神社本殿（国指定）の防火対策の意見交換を行った。（国への補助請求含む） ・奈良県からの委嘱により、定期的に町内文化財の巡視と適切な保護を行った。 ○文化財の啓発・活用 ・文化財看板の修繕、設置、撤去を行った。 ・文化財保護週間に合わせ、地域に関する歴史の研究グループである「史学さんごう」と合同で、11月9日（日）に、文化財についての「史学さんごう文化講演会」を開催した。 ・町内に関連する万葉歌の啓発グループである「みさと万葉歌プロジェクト」と合同で、3月6日（金）に万葉集についての「みさと万葉文化講演会」を開催した。 ・三郷小学校、三郷北小学校児童の文化センター郷土資料室への訪問があり、「史学さんごう」の協力のもと児童達に農具や古民具について説明を行った。 ○文化・歴史学習の機会 ・生涯学習の学級として「歴史教室」を開講し、身近な歴史等を学ぶ機会を提供した。 - また、三郷町に関わる万葉歌が多く謳われていることをなどを踏まえ、「みさと万葉学習会」を開講し、万葉歌人の感性や歴史的な背景に触れた。 ○埋蔵文化財 ・平成22年度の三郷中央公園多目的広場建設に伴い、約15,000年前の石器のアトリエ跡である「勢野東遺跡」が発掘されたことにより、平成23年度より5カ年計画で、勢野東遺跡発掘調査報告書の作成業務を奈良県に委託している。
---------	--

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○文化財の保護・啓発・活用 ・町所有の文化財の改修を行い、その他の指定文化財の維持管理に伴う経費を助成するとともに、町内の文化財の定期的な巡視を行うことにより、適切な文化財の保護が行えた。【成果指標①②】 ・文化財看板の老朽化や所有者の状況に合わせて、看板の修繕や設置、撤去を行うことにより、見学者がアプローチしやすくなった。【成果指標③】 ・文化財保護週間に合わせ、教育委員会と住民団体である「史学さんごう」の共催で「史学さんごう文化講演会」を行い大好評を得たので、今後も上記団体と連携し講演会を開催する。 ・教育委員会と住民団体である「みさと万葉プロジェクト」の共催で「みさと万葉文化講演会」を実施。好評であったことから、今後も上記団体と連携し講演会を開催することとなった。 ○学級の開催 ・「歴史教室」は72人、「みさと万葉学習会」では66人の登録があり、1年を通じて歴史文化に親しむことができた。
-------------	--

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①遍照院シダレザクラ保全	消毒業務	有無	有	有	H25 61,320 H26 90,000
	②（勢野）八幡神社本殿保全	防火施設点検 (国補助額)	有無	有	有	H25 15,000 H26 15,000
	③文化財看板の修繕・設置・撤去	修繕	有無	有	有	H25 997,500 H26 277,776
	④勢野東遺跡発掘調査報告書作成業務	調査・製本業務	有無	有	有	H25 240,000 H26 100,000
	⑤史学さんごう文化講演会	参加者数	人	76名	126名	H25  H26 
	⑥みさと万葉文化講演会	参加者数	人	170名	200名	H25  H26 

③事業の課題	【継続的な課題】 ①文化財台帳に記載されている町内の文化財について現状確認を行い、所有者と意見交換を行うことで文化財保護に努める。 ②町内にて発見されている埋蔵文化財（勢野東遺跡含む）について、どのような活用をしていくか活用方を検討する必要がある。 ③指定文化財に修理等の必要が生じた場合、所有者が負担の上、国・県・町とそれぞれの指定に合わせて補助される仕組みとなっているが、現状では所有者の負担が大きくなっている。指定文化財を維持していくには長期間にわたる所有者の理解と協力が必要なことから、極力所有者の負担を減らす体制が必要である。 ④観光担当部署と協議を行い、文化財や史跡と関連する案内板等の整備を行う。 ⑤事業が専門的になればなるほど、専門の人材が必要となってくるため、人材確保の方法を考える必要がある。
	【新たな課題】 ①専門の人材が居ないことにより、文化財に関する展示会等のイベントの開催が困難である。

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①住民団体等の協力のもと、定期的に訪問調査を行う。 ②文化財保護審議会の意見を踏まえながら、町として今後も維持管理しながらよりよい活用方法を検討していく。 ③文化財の所有者と定期的に意見交換を行い、それぞれの所有者の負担状況の確認を行う。また、負担が大きくなり過ぎないように、国・県へも補助を要望するとともに、町の補助制度の見直しも検討していく。 ④訪問者にとって巡りやすく理解しやすい看板等を設置、整備し誘導を行う。 ⑤各分野の専門家と意見交換を行い、連携を取れるようにしておく。
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①文化財専門の職員の雇用を検討する。

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☒ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☐ 見直し	(内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止・廃止
	・文化財を観光資源の1つとし、案内看板の補修、新設を行い地域の活性化を図る。 ・住民団体を活用し、定期的な文化財の調査から講演会等のイベントまで協力しながら行う。 ・国や県、他市町村の関係機関とも連携し、情報交換を行う。	

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑱生涯スポーツの推進	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章・第4節の①②③
基本方向	- 誰でも継続的に気軽に楽しめるスポーツの機会を提供するため、指導者やボランティアリーダーの育成に努めます。 - 健康づくりや交流の場となる軽スポーツの普及に努めます。 - 青少年のスポーツ活動の振興を図り、そのための環境整備や自主的な活動への支援に努めます。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	○スポーツの推進 - スポーツを通して町民が生涯にわたり心身ともに健康な生活を営むため、三郷町体育協会や三郷町スポーツ少年団及び三郷町スポーツ推進委員などと連携し、スポーツを推進するとともに、身体づくり及び健康づくりを図る。 ○軽スポーツ事業 - 自分にあったスポーツライフの実現と競技の技量を身につけてもらうことを目的に、各種スポーツ等を実施する。 ○「総合型地域スポーツクラブ」の設立 - 住民の主体的な運営により、すべての世代の住民が楽しめる総合型地域スポーツクラブ「元気☆ひまわりクラブ三郷」を平成26年9月25日（木）に設立し、9月28日（日）にオープニングイベントを実施した。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果	○スポーツの推進 ①町民体育祭の開催 - 地域社会がスポーツイベントを通じてスポーツに親しみ、町民の輪を広げることをテーマに、三郷町体育協会主催で三郷町スポーツ少年団や他の各種団体の協力のもと、10月12日（日）に三郷中央公園多目的広場において第44回町民体育祭を開催した。 ②野球審判講習会 - 盛んなスポーツの一つとして野球があるが、試合等の審判及び指導者の育成を行うとともに、ルール等の改正に対応するため、5月25日（日）に審判講習会を開催した。 ③関係団体に補助金の助成 【三郷町体育協会】 目的：スポーツの普及振興と競技団体の育成強化を図り、町民の健康増進と体力の向上に努め、明るく活力ある地域社会づくりに寄与する。 ※補助金額 2,041,816円 【三郷町スポーツ少年団】 目的：加盟団体の資質の向上を図り、スポーツ振興意欲を高める。 ※補助金額 800,000円 ④三郷町スポーツ推進委員 - 子ども人権学習支援事業などに出向き、スポーツ振興のため住民に対しスポーツの実技指導等を行った。 ⑤軽スポーツ事業 - 三郷町体育協会主催で9月21日（日）に軽スポーツフェスティバルを開催し、軽スポーツの普及に取り組んだ。 ⑥総合型地域スポーツクラブ「元気☆ひまわりクラブ三郷」の設立 - 住民の主体的な運営により、すべての世代の住民が楽しめる「元気☆ひまわりクラブ三郷」を9月末に設立するため、設立準備委員会会議を4月17日（木）から9月19日（木）までに計7回行い、設立に向けての準備や運営方法等について話しあった。また奈良県スポーツ振興課や他市町村の総合型地域スポーツクラブと連携及び情報交換を行った。 - 平成26年9月25日（木）に設立総会を行い、9月28日（日）にスポーツセンターでオープニングイベントを実施した。 - オープニングイベントでは奈良学園大学マーチングバンド部による演奏やダンスによるオープニングアクト、ダンス教室等を行い280人が参加された。 - 教室等の体験イベントはノルディックウォーキングや軽スポーツなどを4回行い、夏休みにも小学生向けにボール遊び教室体験会を8回、ダンス教室体験会を5回行った。体験型イベントには計269名が参加された。 - クラブの主な事業となる教室について、小学生・未就学児向けにキッズボール遊びやキッズダンスを、一般・シニア世代向けにノルディックウォーキングや、太極拳、様々な種類のヨガ教室など、合計15教室を展開している。開催回数は全ての教室で延べ479回、参加人数は延べ2,840人が参加された。
---------	--

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。					
	○スポーツの推進及び軽スポーツ事業 ・町の社会体育の最大イベントである第44回町民体育祭を10月12日（日）に、三郷中央公園多目的広場において三郷町体育協会及び三郷町スポーツ少年団等の協力により開催した。【成果指標③】 ・三郷町スポーツ推進委員が地域に出向き、軽スポーツ等の振興を図ることができた。 ○関係団体に補助金の助成 ・「三郷町体育協会」及び「三郷町スポーツ少年団」に補助金を助成し、スポーツ振興に関わり育成及び強化を図ることができた。【成果指標①②】 ○総合型地域スポーツクラブ 準備期間を経て9月25日（木）設立 ・体験型イベントや体験教室（ボール遊び教室等）を開催し、会員数の増加を図った。会員数は9月末で67人、3月末で100人となっているが、目標人数である150人を下回っている。					
②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①三郷町体育協会	補助金	円	2,240,000	2,041,816	H25 2,240,000 H26 2,041,816
	②三郷町スポーツ少年団	補助金	円	800,000	800,000	H25 800,000 H26 800,000
	③町民体育祭	補助金	円	916,358	959,517	H25 916,358 H26 959,517
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26
③事業の課題	【継続的な課題】 ①昨今、様々なニュースポーツが発案され行われていることから、本町においてもその種目の取り入れ方法を検討するとともに、既存の種目においても競技人口が減少しているものがあり、今後の運営の在り方を検討する必要がある。 ②総合型地域スポーツクラブ「元気☆ひまわりクラブ三郷」の運営費などの町などのバックアップ体制の確立が課題となっている。					
	【新たな課題】 ・総合型地域スポーツクラブ「元気☆ひまわりクラブ三郷」の会員数が伸び悩んでいる。教室の内容や実施時間など現在利用していない方のニーズを把握する必要がある。また、教室を開催する場所が確保できないことや資金繰りが苦しい状況である。					

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①新しいスポーツ種目については、競技の目的・ルール等を十分把握し、実施市町村等へ出向くなど情報の収集及び分析を行い、地域への普及を検討する。 ②総合型地域スポーツクラブ「元気☆ひまわりクラブ三郷」の運営状況を注視し、必要に応じて住民の主体的な運営を損なわない程度のサポートを行う。					
	【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・教室の夜間・土日実施を行い、近隣のクラブと連携した教室の開催、共催による泊を伴うスキー教室を実施する。また、資金面ではスポンサー等を確保する。					

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)				
	☒ 見直し	(内容)	☒ 予算拡充	☐ 予算削減	☐ 事業拡大	☐ 事業縮小
	・総合型地域スポーツクラブ「元気☆ひまわりクラブ三郷」の運営費については、スポンサーを募り資金獲得を目指し、新規会員の獲得についてはチラシの配布や町フェイスブックを活用してアピールを行う。 ・経験を生かし指導者等になっていただけるよう、体育協会・スポーツ少年団加入者に対しボランティアバンクへの登録を斡旋する。					

平成26年度 教育に関する事務の点検・評価シート

1 基本事項

施策名	⑳スポーツ施設の整備	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章・第4節の④⑤
基本方向	・より多くの人が気軽に生涯スポーツを楽しめるよう、現有施設の有効利用を図り、誰もが利用しやすい施設改善を図ります。 ・自主的・主体的な総合型地域スポーツクラブの運営を支援をします。				

2 事業概要・目的(PLAN)

事業概要・目的	○スポーツ施設の整備 ・施設の整備・充実を図るとともに、生涯スポーツと競技スポーツを連携し、運動能力向上の拡充に努めることを目的に、地域スポーツの振興と拡大及び社会体育を推進する。 ○指定管理 ・民間の経営や事業展開のノウハウを活用し、より充実したスポーツ施設の管理運営を行うためスポーツセンター及びウォーターパークを合わせて管理運営を行う。
---------	---

3 事業実績・結果(DO)

事業実績・結果

◎ スポーツ施設の整備

・各施設は、設置からかなりの年月が経ち、経年劣化により施設の維持修繕が必要になっていることから、修繕、改修を行い施設利用に支障のないよう安全安心な施設運用を行った。

①竜田運動公園

・住民がスポーツに関心を高め、その普及と向上発展を図るために設置。

利用種目：成人及び学童軟式野球、ソフトボール、グラウンドゴルフ、サッカー、テニス等

施設整備：テニスコート改修、真砂土の入替えを行った。

(決算額：6,880,680円)

②勢野グラウンド

・住民がスポーツに関心を高め、その普及と向上発展を図るために設置。

利用種目：学童軟式野球、女子ソフトボール、少女ソフトボール

施設整備：真砂土の入替えを行った。(決算額：165,240円)

③スポーツセンター

・スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、健康で文化的な生活の向上を図るために設置。

利用種目：卓球、軽スポーツ、少林寺拳法、健康体操、バレーボール等

施設整備：屋上防水工事、地下倉庫シャッター修繕、地下駐車場排水溝工事、消防設備更新を行った。

(決算額：10,992,240円)

④ウォーターパーク

・スポーツの振興及び体力の維持増進を図り、心身の健やかな発達と健康で明るい生活の向上を図るために設置。

施設整備：非構造部材耐震点検調査、プールサイド床塩ビシート貼替、公共樹増設工事を行った。

(決算額：21,263,040円)

⑤中央公園多目的広場

・住民の体力の維持増進を図り、心身の健やかな発達と健康で明るい生活の向上に寄与するために設置。

利用種目：成人及び学童軟式野球、ソフトボール、グラウンドゴルフ、サッカー等

施設整備：グラウンドの凍結防止工事、更衣室改修工事を行った。

(決算額：1,663,200円)

◎指定管理

・民間のノウハウを生かし効率的かつ効果的な施設運営を行うため、平成25年度から5年間スポーツセンター及びウォーターパークを合わせて㈱翔成へ指定管理を行う。

(指定管理料 平成25年度から平成29年度まで合計124,930,980円)

○施設利用状況

施設名	利用者数	
	平成25年度	平成26年度
健民グラウンド	44,060 人	28,965 人
テニスコート	8,945 人	8,271 人
中央公園多目的広場	43,076 人	41,550 人
勢野グラウンド	3,772 人	3,618 人
スポーツセンター	74,907 人	82,319 人
ウォーターパーク	74,335 人	60,744 人

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○スポーツ施設の整備 ・修繕や施設改修を行い、安全で安心な施設利用をしていただくことができた。【成果指標①】 ○スポーツ施設の運用 ・スポーツ施設によっては、利用者数が減少しているものもあるが、利用者の体力の維持・増進や健康で明るい生活の充実、利用者同士の親睦が図れた。 ○指定管理 ・平成21年度まではウォーターパークのみを指定管理としていたが、平成22年度からウォーターパーク及びスポーツセンターを合わせて指定管理とし、民間のノウハウを生かすことができ、効率的・効果的な施設運営と経費の削減を図ることができた。平成25年度から平成29年度までの5年間も引き続き、指定管理を行う。【成果指標②】 ※施設利用者数の減少について ・健民グラウンド 体育祭等の大規模イベントの開催がなかったこと及び定期的利用者が他施設を利用するようになった為。 ・ウォーターパーク 集客が見込める土日の天候が不順であったこと及び25年度に閉園していた県営・香芝市営プールが26年度は開園した為。
-------------	---

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H25年度	H26年度	決算額(円)
	①施設整備	決算額	円	12,500,670	38,350,800	H25 12,500,670 H26 38,350,800
	②指定管理	指定管理料	円	24,980,000	24,980,000	H25 24,980,000 H26 24,980,000
						H25 H26
						H25 H26
						H25 H26

③事業の課題	【継続的な課題】 ①施設の維持管理 ・施設の経年劣化により、施設の不具合や故障が発生し維持管理が困難になっているため、計画的な施設改修等が必要である。 【新たな課題】 ①グラウンドについては、近隣住民より砂塵の苦情が頻繁に発生している。
--------	--

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①施設改修等については、財政状況を勘案し、緊急性の高いものから計画的に改修等を行う必要がある。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①グラウンド利用者による散水の徹底と防塵対策を行う。
------------	---

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☐ 現状維持 ☒ 見直し	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可) (内容) ☒ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☒ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☒ 手法見直し ☐ 休止・廃止 ・住民が望む生涯スポーツを推進するため、現体育施設の適正な維持管理及び施設整備を行い、各施設の利用者増につなげる。
--------------	--	--

IV 学識経験者の知見の活用

1. 点検評価有識者

平成26年度実施分の点検・評価を行うにあたり、客観性を確保するため、下記の学識経験者を点検評価有識者に委嘱し、7月にヒアリングを実施し、指導及び助言を受け、報告書に所要の修正を行った。

☆点検評価有識者：奈良学園大学 副学長（人間教育学部 教授）
西辻 正副

2. 指導・助言の内容

なお、今年度の報告書の総括と次年度以降に改善すべき課題として、以下の指導及び助言をいただいた。

平成26年度分の「教育に関する事務の点検及び評価報告書」では、「三郷町第4次総合計画」に基づいて町教育委員会が実施した各施策について、自己点検及び自己評価を行った結果が分かりやすくまとめられている。

それぞれの施策等の実施、及び点検、評価等の結果等は、おおむね満足できるものであり特段の意見はない。

なお、施策の更なる充実のために、ヒアリングにおいて、これまでの認識に加えて持っていただきたい視点等を申し上げた。最終の報告書は、このことも踏まえ、修正いただいている。

今後とも、教育再生の動きや、町民の皆さんの意向等を的確に踏まえ、この町にとって最適（Local Optimum）な教育行政を展開していかれることを期待している。

平成27年8月10日

氏 名 西 辻 正 副